

第二回全体会

資料②

2006年4月19日

本資料の構成

I. 検討の進め方(確認)

II. 各分科会SWOT分析・クロス分析結果

1. 都市自治分科会
2. 教育文化振興分科会
3. 市民福祉分科会
4. 生活環境整備分科会
5. 産業振興分科会
6. 都市基盤整備分科会

I . 検討の進め方(確認)

1. これまでの検討の経緯 ①全体スケジュール

分科会は毎月開催し、以下のようなスケジュールで検討を行った。
進捗状況は、各分科会の担当分野ごとに5つ程度の重点課題を抽出した段階である。

時 期	検 討 項 目
2005年10月 (全体会と同時開催)	●自己紹介 ●進行方針の決定
11月	●SWOT分析の実施(強み・弱みの検討)
12月	●SWOT分析の実施(機会・脅威の検討)
2006年1月	●SWOTクロス分析の実施(重点課題の抽出)
2月	●SWOTクロス分析の実施(重点課題の抽出)
3月	●SWOTクロス分析を用いた重点課題の絞込み
4月19日(本日)	●全体会(各分科会の検討結果報告)
4月～8月	●施策・事業の提案(主要なものについて絞って提案)
9月	●施策・事業提案発表会
9月～12月	●テーマ分野における指標案の検討
1月～3月	●成果報告書の作成

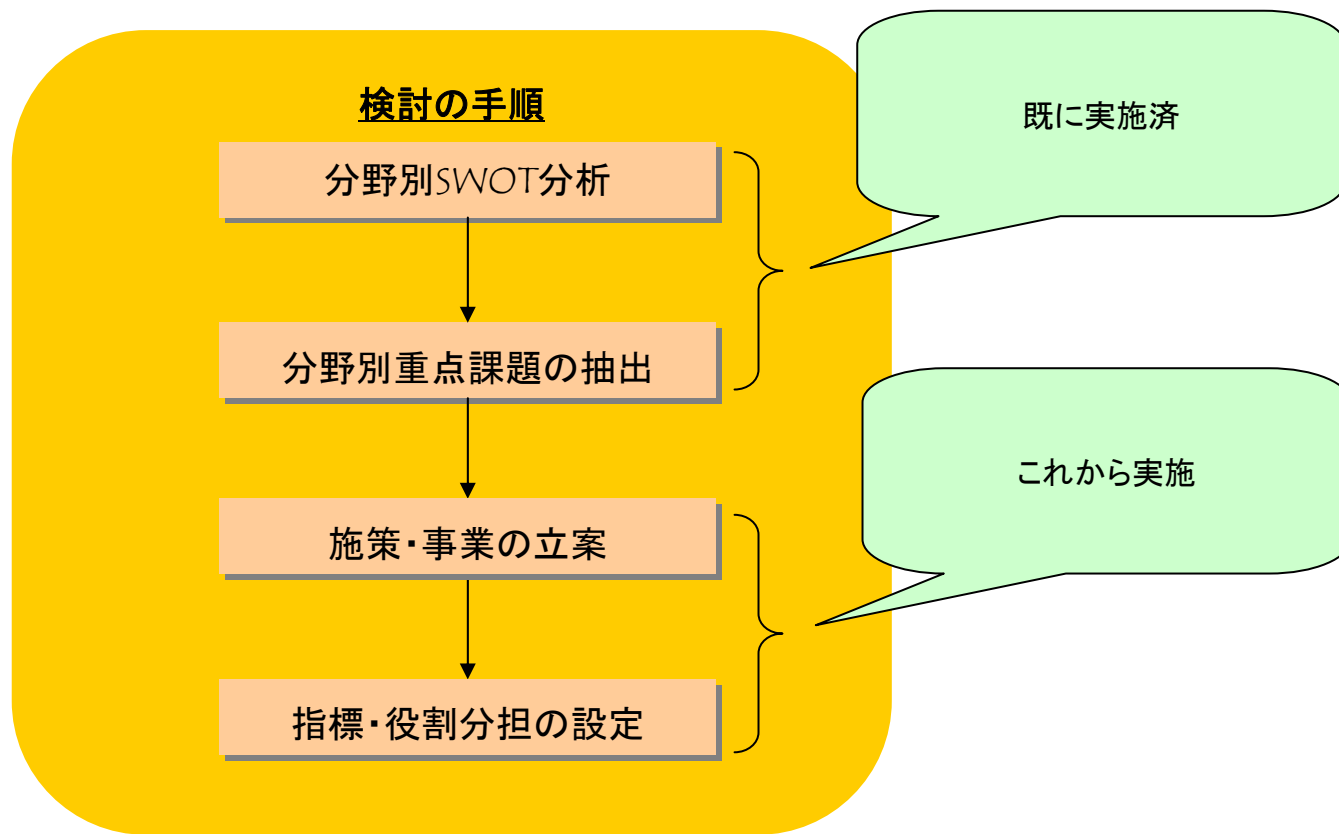
1. これまでの検討の経緯 ②個別スケジュール

各分科会は、以下のようなスケジュールで行った。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
都市自治	10/18 19:30-	11/22 18:30-	12/20 18:30-	1/24 18:30-	2/28 18:30-	3/28 18:30-
教育文化振興	10/18 19:30-	11/16 18:30-	12/19 18:30-	1/25 18:30-	2/23 18:30-	3/24 18:30-
市民福祉	10/18 19:30-	11/29 18:30-	12/20 18:30-	1/27 18:30-	2/28 18:30-	3/27 18:30-
生活環境整備	10/18 19:30-	11/16 18:00-	12/19 18:00-	1/24 18:00-	2/22 18:00-	3/22 18:00-
産業振興	10/18 19:30-	11/22 18:30-	12/21 18:30-	1/24 18:30-	2/27 18:30-	3/22 18:30-
都市基盤整備	10/18 19:30-	11/21 18:45-	12/12 18:45-	1/16 18:45-	2/13 18:45-	3/27 18:45-
(全体会)	10/18 18:30-	-	-	-	-	-

2. 検討の進め方 ①全体手順

各分科会は、以下のような手順で検討を行った。



2. 検討の進め方 ②SWOT分析・SWOTクロス分析

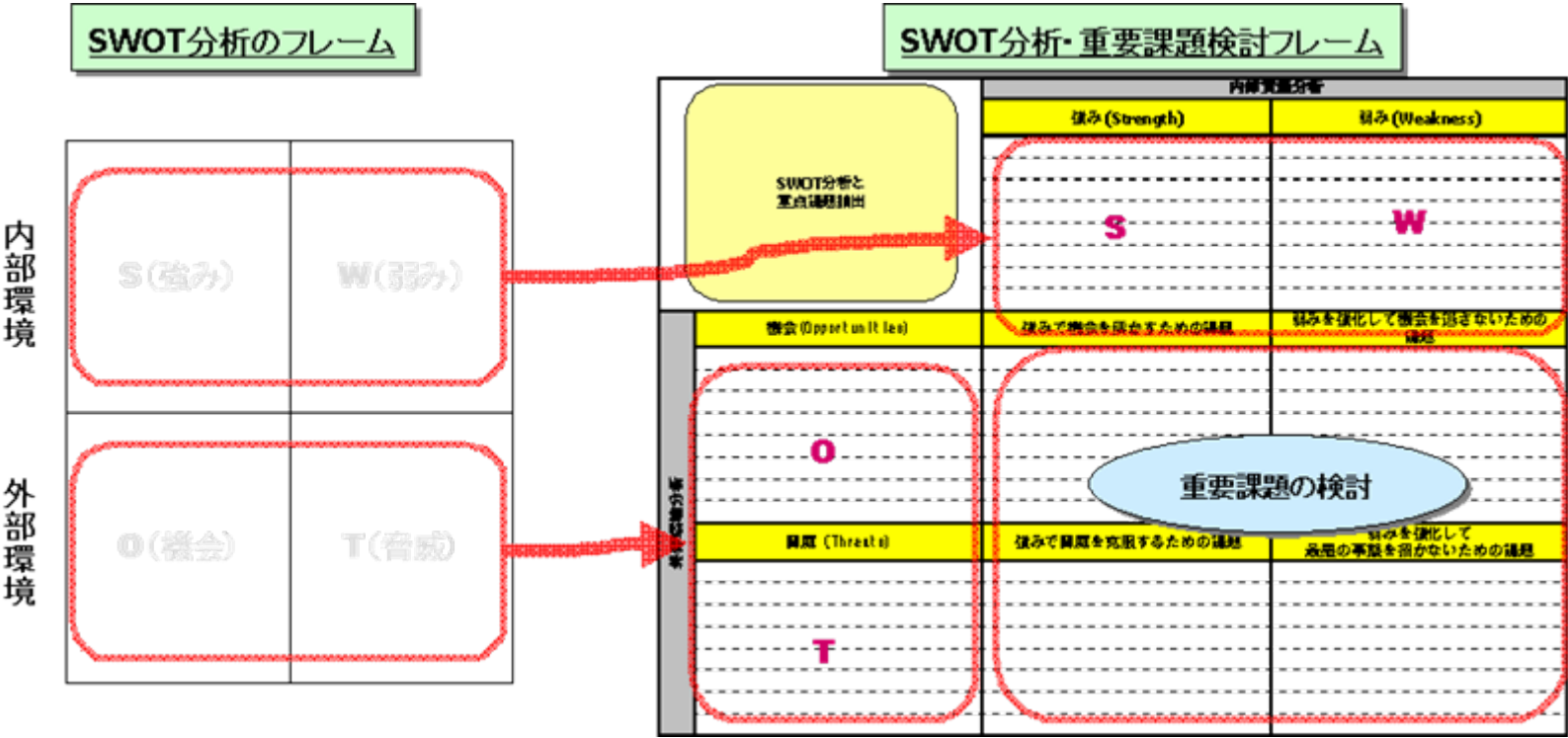
SWOT分析は、以下のようなやり方で実施した。

➡SWOT分析とは

- 限られた資源・財源を有効に活用する、施策・事業を重点化するために、強み・弱みや外部環境（機会・脅威）を分析し、より重要な課題を抽出するために行う分析である。

➡実際の検討では、SWOT分析・重点課題検討フレームを活用して分析・検討を行う

- SWOT分析・重点課題検討フレームでは、SWOT分析と重点課題検討をシート上で分かり易く整理している。
- 現在取組むべき真の課題を考える際に、組織の内部環境と外部環境を分かり易く対応させて検討している。



2. 検討の進め方 ③重点課題の抽出

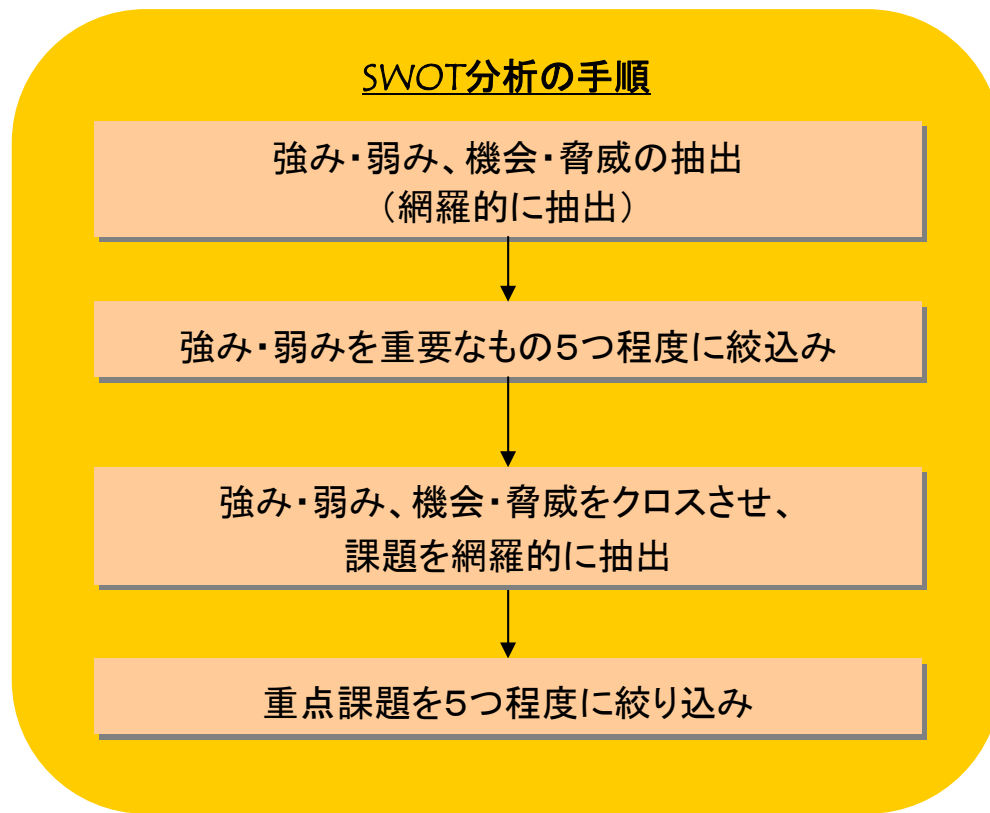
重点課題は、以下のようなやり方で検討した。

- SWOT(強み・弱み、機会・脅威)結果を用いて、次に機会・脅威に対して強みが活かせるか、もしくは弱みをどう強化すべきか、といった観点から取り組まなければならない課題を検討した。
- 『背景(外部環境)に対して、手段(内部資源)を用いて、目的(何をする)』というように、具体的に検討した。

		内部環境	
		S : 強 み	W : 弱 み
外部環境	機 会 :: O	機会を捉えて強みをさらに強化するための課題は？	弱みを強化して機会を逃さないための課題は？
	脅 威 :: T	強みを強化して脅威を克服するための課題は？	弱みを強化して最悪の事態を避けるための課題は？

2. 検討の進め方 ④具体的な手順(まとめ)

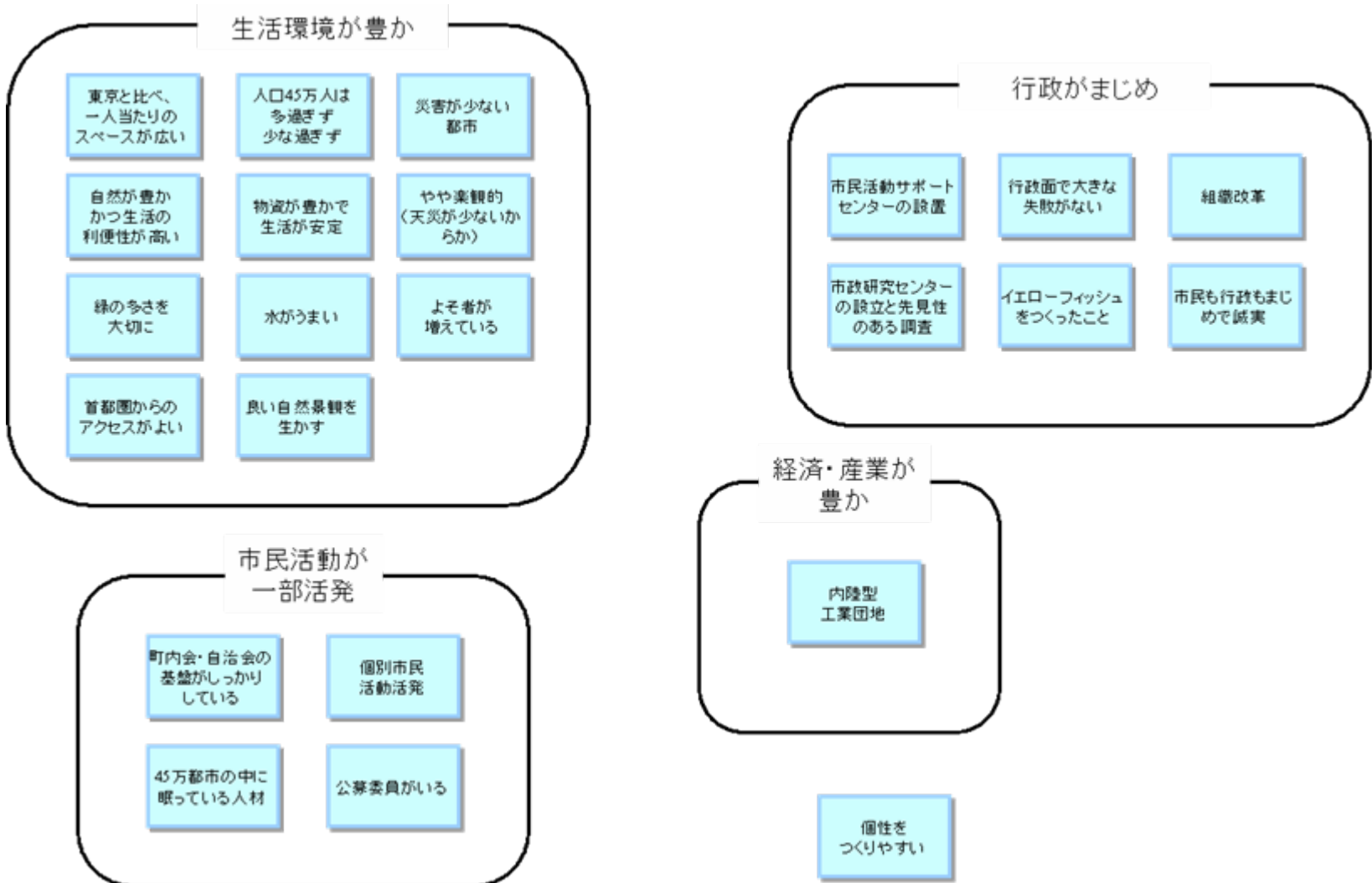
SWOT分析・SWOTクロス分析・重点課題の抽出は、具体的には以下のようなステップを通して検討した。



Ⅱ . SWOT分析結果

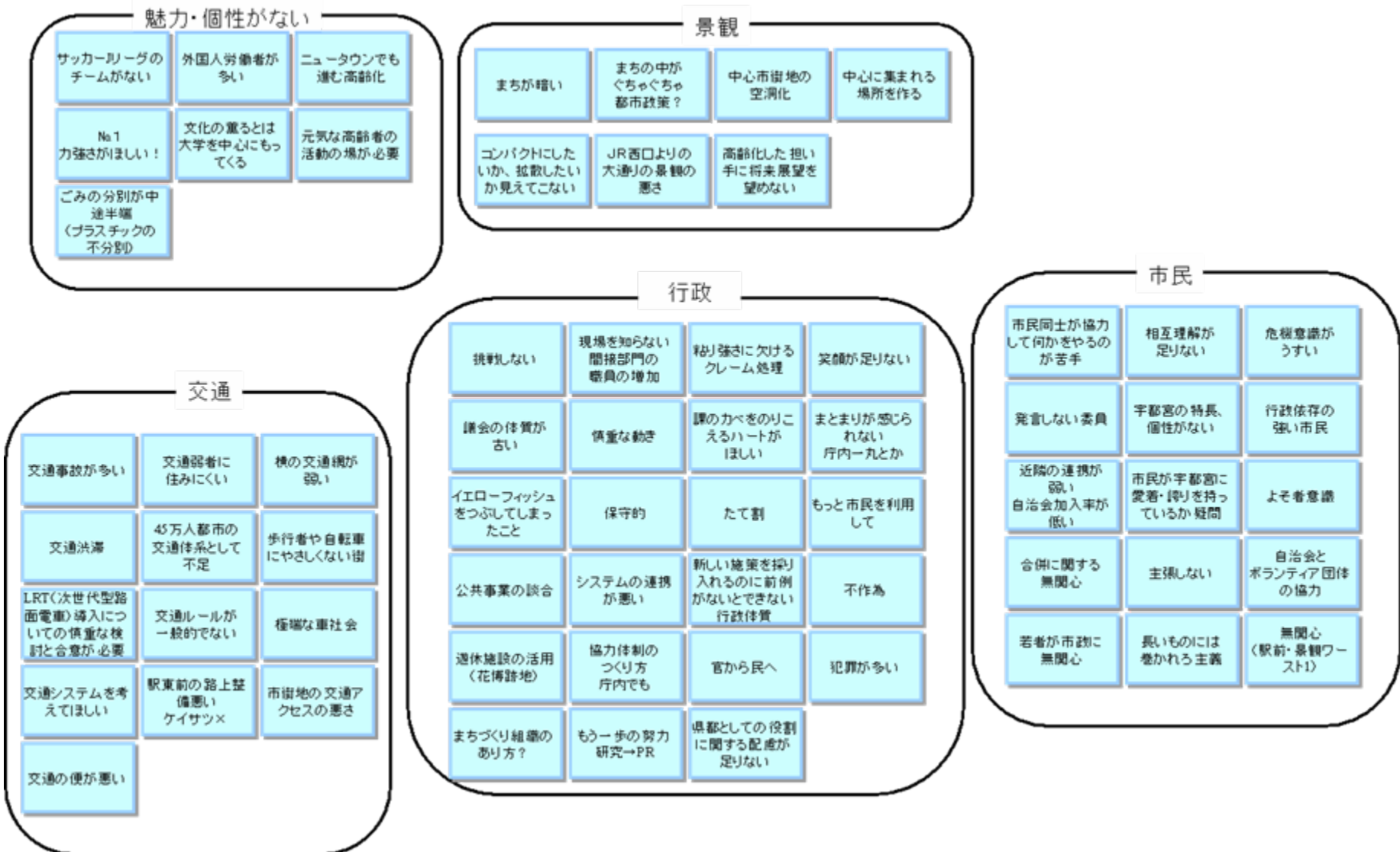
1. 都市自治分科会（1）SWOT分析 ①強み

都市自治分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「強み」は以下の通りである。



1. 都市自治分科会（1）SWOT分析 ②弱み

都市自治分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「弱み」は以下の通りである。



1. 都市自治分科会（2）SWOT分析 強み・弱みの絞り込み結果（5つ程度）

都市自治分科会では、強み・弱みの中から、特に重要なものを5つ程度に絞り込んでいる。
絞り込まれた「強み・弱み」は以下の通りである。

強み

- ①45万都市に眠っている人材
- ②内陸型工業団地
- ③市民も行政もまじめで誠実
- ④災害が少ない都市
- ⑤自然が豊かかつ生活の利便性が高い

弱み（問題）

- ①45万都市の交通体系として不足
- ②まちが暗い
- ③システムの連携が悪い
- ④行政依存の強い市民
- ⑤魅力・個性がない

1. 都市自治分科会（3）SWOT分析 ③機会／④脅威

都市自治分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「機会」「脅威」は以下の通りである。

機会

元気な高齢者が増加

- ◇元気な高齢者が増える
- ◇健康志向が高まり、体を動かすことの重要性が増す
- ◇高齢者の社会参加
- ◇リタイアする団塊世代のマンパワー
- ◇高齢者有効活用
- ◇高齢者の活動の場作り
- ◇超高齢化

市民活力の活性化

- ◇市民活動の活発化
- ◇女性の力がまちづくりに投入される
- ◇NPOの活動の普及(子供の安全、高齢者の安全)
- ◇ボランティア活動が今以上に活性化
- ◇よそ者の積極性を輸血して市民体質の改善
- ◇市街地にポイントとなる場所作り

協働の進展

- ◇市民協働の効果が出てくる
- ◇行政と市民と一体になる様に
- ◇行政サービスの意識が変化する
- ◇市政の情報開示
- ◇自己責任の時代

環境・景観への意識の高まり

- ◇景観や自然環境の良さがますます注目される
- ◇自然景観に恵まれた天才の少ない住み良い都市
- ◇使い捨ての意識が弱まっている
- ◇魅力ある環境都市

IT化

- ◇インターネット活用
- ◇情報のIT化がさらに進
- ◇個人情報保護の徹底した社会

交通の利便性が高まる

- ◇交通への配慮
- ◇自動車抑制の先進都市・環境都市化
- ◇低公害交通機関導入の先進都市へ

新産業が発展・連携していく

- ◇産業の発展
- ◇産学官の連携
- ◇モビリティ産業の外に燃料電池産業を積極誘導

脅威

自然環境の減少

- ◇身近な自然環境(里山、樹木など)が減少する
- ◇農地がますます減少する

教育環境の悪化

- ①親のレベル
- ②教員のレベル
- ③地域のレベル
- ◇子供は地域で守る
- ◇安心ある子育て
- ◇子育て環境等保育園の充実
- ◇人間としての教育
- ◇心を動かすことが今以上に必要
- ◇教育のやりもどし

市民間の連携がとりづらくなってくる

- ◇市民の意識二極化
- ◇ITに關しての二極化
- ◇政治に対する関心が弱まる
- ◇横のつながりがさらに必要な時代になる
- ◇世代間の意志不統一(孤立化)

財政の悪化

- ◇国民保険の経営悪化
- ◇年金問題
- ◇政府の予算管理の変化

ますます魅力がへっていく (特色がないため)

- ◇名物が作り出される
- ◇文化の香りのしない都市は敗者になる
- ◇魅力のないまち
- ◇特徴のないまち
- ◇魅力のない素通り都市

ゴーストタウン化

- ◇中心市街地のゴーストタウン化
- ◇都心部のゴーストタウン化
- ◇大規模店がますます増加する

犯罪の増加

- ◇犯罪の少ないまち
- ◇防犯で安全なまち
- ◇社会の不安定化

少子高齢化による人口減

- ◇特に市周辺部で小学校の統廃合が増える
- ◇労働力人口の減少
- ◇少子化が進
- ◇高齢化が進む
- ◇人口減
- ◇税収が減少する
- ◇産業力、生産力が減少する
- ◇高齢化社会への対応

交通弱者の増加

- ◇交通渋滞
- ◇高齢化により交通弱者が増える
- ◇高齢者への交通システム
- ◇LRTの導入は反対
- ◇車社会に高齢化の波が押し寄せる
- ◇自動車公害で市民・商店街共倒れ
- ◇車社会の弊害がさらに深刻に
- ◇車社会で生活でにくい人の増加

- ◇官と民の役割を整理しないと市民に負担が増える
- ◇合併への対応を迫られる
- ◇南北問題(世界の中で宇都宮の経済力を活かす)
- ◇東京都の競合
- ◇ペットの数が増大(ペット病院も)

1. 都市自治分科会（4）SWOTクロス分析結果

都市自治分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

強み×機会

- ◇IT化を推進して一方通行でない双方向的意見提案システムを築き、情報公開の迅速化を図る
- ◇交通システム網の進展により交流人口を高める
- ◇自治基本条例を作る（市民本位の街づくりを保証する）
- ◇元気な高齢者を積極的に採用し、経験・技術を生かす機会を作る
- ◇高齢者の社会参加
- ◇介護予防政策で医療費削減
- ◇行政は高齢者を守る
- ◇既存の施設の積極的開放と多目的利用の促進
- ◇市民教育の充実
- ◇目覚まし講座の充実
- ◇市民活動のきっかけづくりの場の提供
- ◇行政サービスの提供に必要な専門知識を市民から得る
- ◇市民交流の広場づくり
- ◇市民、行政。能力を還元しあい、協働の機会を増やし互いに高めあう
- ◇協働意識の高まりにより市民活動を高める
- ◇行政サービスの担い手としての市民を採用
- ◇景観行政の充実（景観地区の指定、景観計画の策定）
- ◇宇都宮の景観をどのようなものとするか、一貫してアーバンデザインを実行できる体制を築く
- ◇市街地のビルの高さを規制して自然景観を活かす街づくり体制を築く
- ◇川が貫流する都市の良さを活かす
- ◇小さなビジネスの保育器（インキュベーター）をつくる

- ◇人・組織、連携システムづくり（マニュアル）
- ◇ゴミ等の循環システムを高め生活環境を良くしていく
- ◇箱物以外への投資
- ◇地域コミュニティより子供の育成安全を確保する
- ◇子供たちを中心とした街づくりを積極的に推進
- ◇財源難の克服
- ◇公募債の積極的活用
- ◇工業団地における団塊世代退職者を活用協力をうながす
- ◇団塊退職者の技術を継承し産業力を高める
- ◇企業を市民の交流を通して新風を吹き込む
- ◇産学官の連携を高め、地域産業を高める
- ◇防災士教育機関の設置
- ◇余力を防犯や人間関係づくりにむける
- ◇歴史を前に出す
- ◇観光資源のPRを客の誘導策
- ◇県に負けない魅力的なキャッチフレーズの創出
- ◇CO₂の嫌煙分煙で環境度up
- ◇もったいない運動の推進（食育の充実）

弱み×機会

- ◇平坦な土地を利用した自転車道の整備
- ◇市民意識の向上
- ◇市民参加のアイデアを市民に募る
- ◇行政と市民が危機感を共有するしかけを行う
- ◇行政以外の市民活動相談窓口を
- ◇分散型の市民生活支援システム（身近なところに福祉や子育て支援の場）
- ◇ケアマネジメントの宇都宮モデル（利用者の立場に立ち時には行政を闘うケアマネージャー）
- ◇市民が作る楽しい街
- ◇行政が施策の実施をめぐる市民協力を積極的に要請
- ◇明るい街づくりに。大通り沿いのビルは照明を
- ◇提案（もっと知らせる）話す・伝える・お知らせする
- ◇交通事故死1位の本県の、原因究明と対策及び防止の実行
- ◇車を利用しないで生活できるまちづくり
- ◇MMの導入（市民協働のコミュニケーション）
- ◇公共交通を放射線状からネットワーク状に改善し、交通弱者への配慮を強める
- ◇交通政策にはビジョンが必要（時には採算性を度外視してもやらなければならない）
- ◇放射線状の交通網を結ぶ横軸の交通網整備
- ◇公害のないまちづくり
- ◇コミュニティビジネスの育成を行政の主導で（市民協力）

- ◇市民の誇りに結びつく施策（美しい街、大谷石、新交通システム）
- ◇ギョウザに絡めた宇都宮独自のキャラクターグッズの考案
- ◇特徴がない弱みを逆用して新しい特徴を皆で創り出し確立する
- ◇今あるものを生かす、のぼす、知らせる
- ◇行政が抱える難題を良い意味で市民に丸投げする
- ◇大学を魅力的にすることが街の魅力を押し上げる
- ◇市内における総合的学習の成果を行政が集約する
- ◇この際、はっきりと政令指定都市を目指す
- ◇自然エネルギーを用いた電力供給でまちを明るく
- ◇総合型地域スポーツクラブを世代間交流の拠点に
- ◇学び隊精神向上委員会（学びの活かし場）

1. 都市自治分科会（4）SWOTクロス分析結果

都市自治分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

強み×脅威

- ◇人材の活用（技術者・高学歴表）
- ◇人を活かす
- ◇市民中心のまちづくりでまちの魅力をつくる
- ◇市民活動の活発化
- ◇居住地との関わりのある教育（小・中）
- ◇小・中（高）の社会人教師増強
- ◇宮祭りイベントの改良
- ◇更なるボランティア活動の活性化
- ◇市民のボランティア・コーディネーターを育てて地区市民センターに配置
- ◇清原工業団地等へのアクセスをよくしないと宇都宮から出て行ってしまう
- ◇工業集積に対する交通対策が必要。環境の悪化
- ◇特徴あるまちづくりで人口増を（流入、子育て）
- ◇まじめ誠実であるゆえに
- ◇小中高大でボランティア参加をカリキュラム化宇都宮方式といわれるようなものを作りたい
- ◇都会と比べた場合の大学スペースの広さ→生涯学習等人々の憩いの場へ活用
- ◇自然公園の充実→自然の資源を生かした環境イベントの実施
- ◇小中学校施設における体育館・グラウンドの充実→体育館等のスポーツ活動機会の拡大を
- ◇高齢者・子供の体、健康づくりへの関心→総合型地域スポーツクラブの配置を
- ◇公民館・コミュニティ施設に対する住民の身近感→自主運営・自主管理のコミュニティ施設へ
- ◇環境都市を目指す（自然、災害）
- ◇児童公園など身近な施設に対する住民の愛着高い→住民による自主運営、自主管理に切り替える
- ◇ごみのないクリーンなまちづくり（シンガポールをモデルに）
- ◇起業支援強化段階の世代のビジネス戦士をソーシャル・ビジネスの担い手に
- ◇協働・市民参画条例化が求められている
- ◇行政の積極性が求められている
- ◇他に誇れる“宇都宮”モデルを協働で作る
- ◇人を呼び込む

- ◇団塊の世代が街づくりにかかわれる人口をひろげる
- ◇郊外ニュータウンの高齢化対策、大学との連携、寮、まちづくりへの参加実践的学習
- ◇都心に「市民の森」を持てないか（JR東口など）都市の魅力の向上策
- ◇県内市町村の自然を守る。宇都宮市民ボランティア結成

1. 都市自治分科会（4）SWOTクロス分析結果

都市自治分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

弱み×脅威

市の出張所機能についての住民理解が不十分→出張所主体の積極的PR

◇郊外ニュータウンに取り残される交通弱者、新交通システムは必要で時には採算性を度外視してもよい

◇平地林の減少→植林スペースの場を設定

◇情報の積極的な提供、市民活動NPOなど

◇情報誌新聞の開発（町の顔）

◇市民に情報をわかりやすく伝達する工夫

◇市の「誇り」が埋没→市の誇り（ソフト、ハード）を発掘

◇終バスの時間を遅くする

◇まちが犯罪につながる

◇運転不可の視点

◇徒歩環境の構築

◇交通体系を整え、交通弱者を減らす

◇公共交通を充実させて蘇民のふれあいをうながす

◇歩いて買い物ができるまち（公共交通網の完備）

◇温暖化対策、農産品が変化

◇家庭菜園の増設

◇街が空洞化していく現状を検討の必要あり

◇中心地に高齢者が活動できる場所

◇新交通システムの導入により都心を歩いて楽しめる空間に改造→新しい都市の魅力に

◇強みを生かした宇都宮モデルの創出

◇若い人達が自由に発表できる場所

◇若者を中心に集める

◇地域コミュニティの強化

◇中心を店化しないで文化的中心地にする

◇歩行者天国を実現して近い将来に備える

◇中心市街地に子供や高齢者が集まる魅力なし→歩行者天国の実現を

◇市民不在の行政を勧めていくことが多い

自然環境を大切に考える

◇住民が市役所に依存しすぎる→一定の予算を地域住民の裁量で利用

◇市民が主体となってまちづくりをすすめる場作り

◇自然景観の宣伝活動の強化

◇全体的な交通体系の整備を要する。渋滞と弱者対策

◇市民の意識向上の寄与する学び。体験の場。予算を確保する

◇国際交流、姉妹都市を表現できる店

◇行政の協働への意識の向上がもとめられてる

◇市民の公共への関心・意識の向上が求められている

◇子育て環境の充実

◇犯罪防止策

◇魅力、個性の創出がないと交流人口も増加しない

◇魅力、個性がないと宇都宮に対する誇りが生まれない

◇市民、行政企業の協働ネットワークづくり

◇エリア、テーマ型懇談会を定例開催

◇教育の充実、道徳心

◇行政依存過ぎるのはダメ。地域での対策地域自治がめばえない

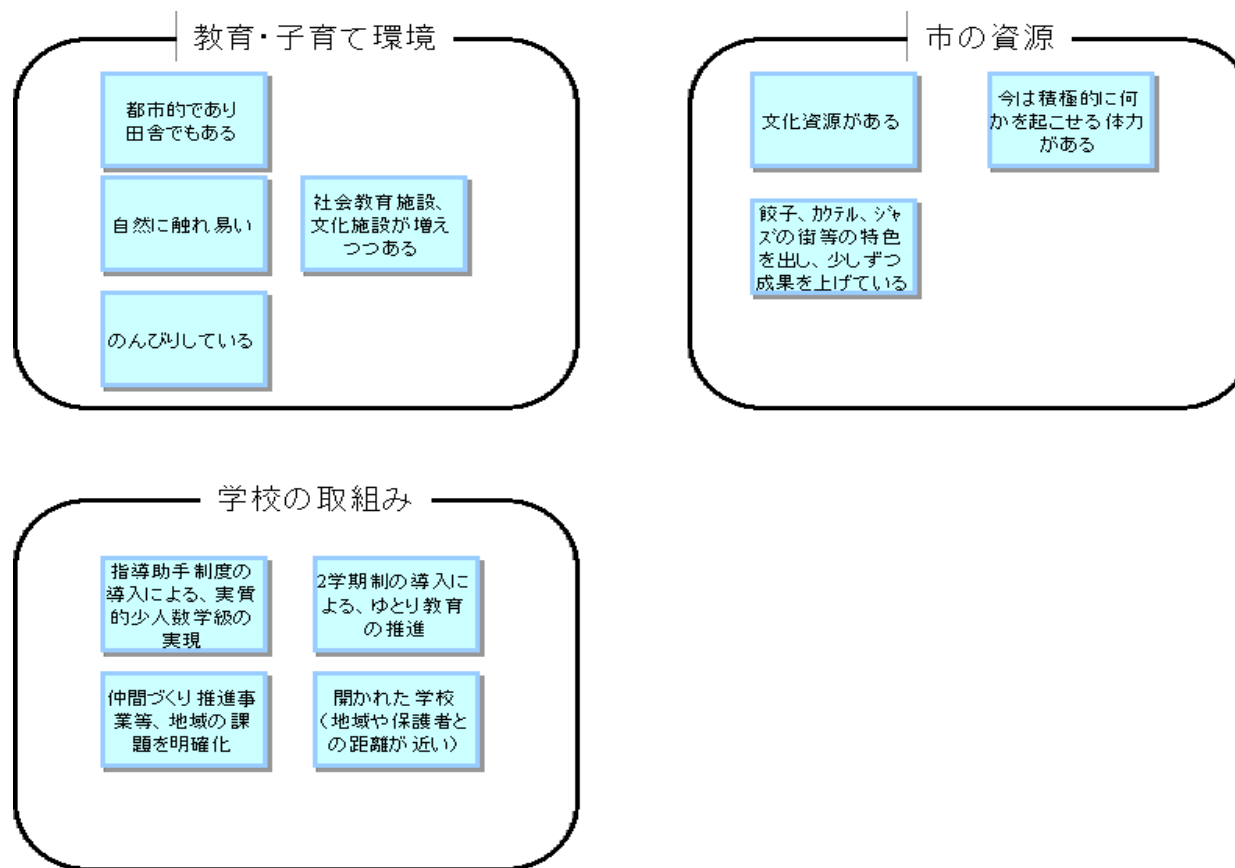
◇街灯の少なさ（夜間の暗さ）→デザインも含め住民アイディアの採用で設置

まとめ

- ・市民・企業・行政の情報共有
- ・真の意味での市民と行政との協働の実現
- ・団塊の世代の地域での戦力としての活用
- ・身近な公共施設の有効活用
- ・近隣での対話と助け合いのある地域社会の構築

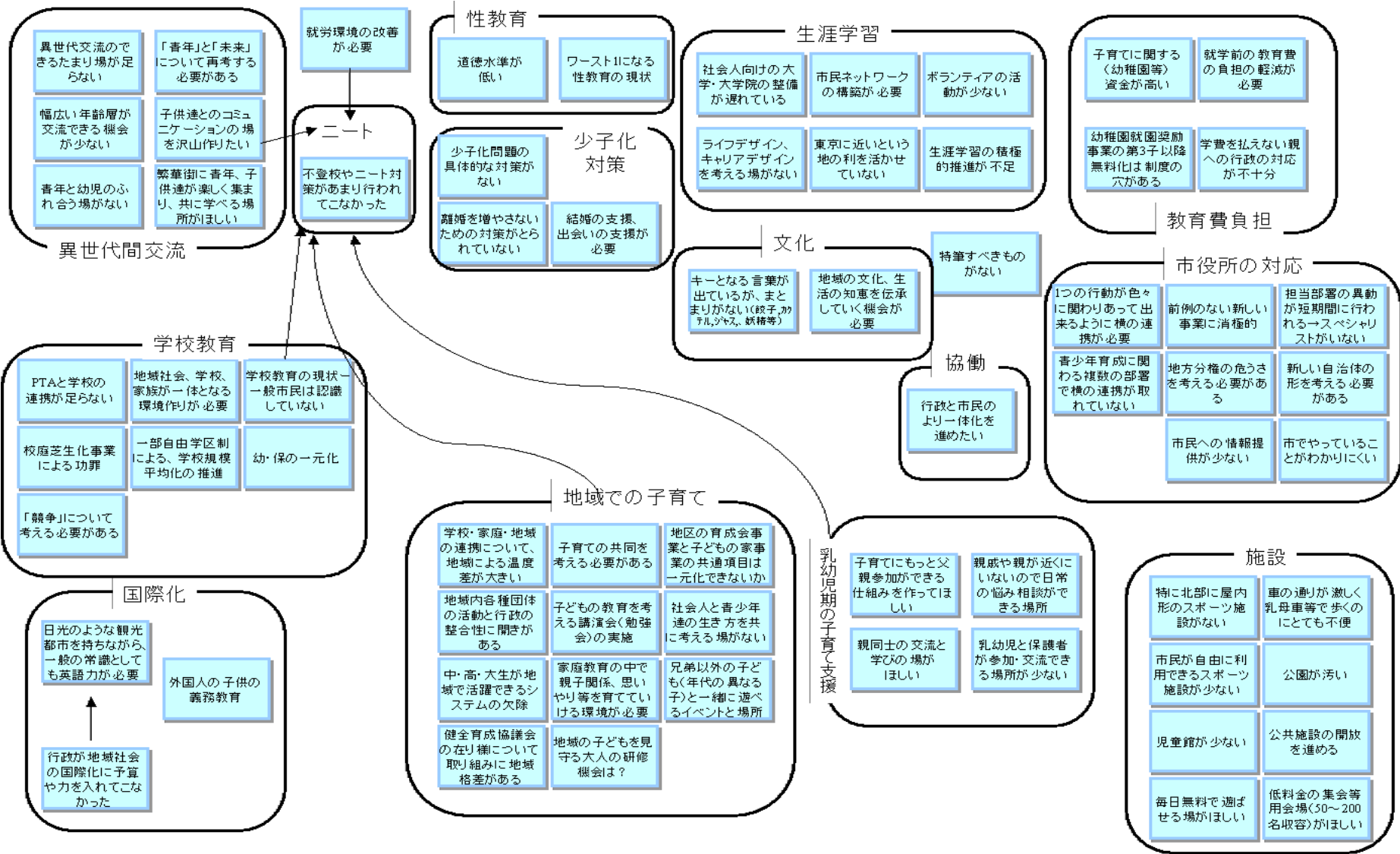
2. 教育文化振興分科会（1）SWOT分析 ①強み

教育文化振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「強み」は以下の通りである。



2. 教育文化振興分科会 (1)SWOT分析 ②弱み

教育文化振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「弱み」は以下の通りである。



2. 教育文化振興分科会（2）SWOT分析 強み・弱みの絞り込み結果（5つ程度）

教育文化振興分科会では、強み・弱みの中から、特に重要なものを5つ程度に絞り込んでいる。
絞り込まれた「強み・弱み」は以下の通りである。

強み

- ①自然が豊か
- ②文化資源が豊富
- ③（いまは）市の財政が比較的余裕がある
- ④開かれた学校への取組みがなされている
（学校評議員、教頭会が学校評価）

弱み（問題）

- ①異なる年齢の子どもや親同士が交流できる拠点の不足
- ②青少年向け施策のなかで青年向けのものが充実していない
- ③市の情報発信力の弱さ
- ④地域間格差（自治会や学童保育などの活動の差等）
- ⑤定住外国人への教育面での対応不足

2. 教育文化振興分科会（3）SWOT分析 ③機会／④脅威

教育文化振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「機会」「脅威」は以下の通りである。

※本分科会では機会と脅威を独立して議論せず、重点課題のアイデアを出すなかで議論した。

機会

- ①教育や子育てへの市民の協力者（ボランティア、企業等）の増加
- ②団塊世代の退職による、人材の供給（ボランティア講座への講師の派遣など）
- ③国際交流の機会の増加
- ④行政への市民参加の進展（宇都宮をああしたい、こうしたいという市民の声の増大）
- ⑤学校の空き教室等の他の教育活動に活用可能な資産の増加

脅威

- ①子どもを安心して遊ばせることのできる場の減少（治安の悪化）
- ②ひきこもり、うつ等で悩む少年、青年の増加
- ③未婚化の進展
- ④フリーター、ニートの増加
- ⑤地域間格差の拡大（自治会等の活動の活性度の差等）
- ⑥教育に無関心な親の増加
- ⑦母語のない子どもの増加

2. 教育文化振興分科会（４）SWOTクロス分析結果

教育文化振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

強み×機会

自然のなかで子どもを育てる機会の提供

◇自然が豊か×教育や子育てへの市民の協力者の増加

若者による市の文化PR

◇文化資源が豊富×教育や子育てへの市民の協力者の増加

強み×脅威

子どもを安全に遊ばせる場と人材の提供

◇開かれた学校への取り組みがなされている×子どもを安心して遊ばせることのできる場の減少

弱み×脅威

世代間交流の場の整備

◇異なる年齢の子どもや×子どもを安心して遊ばせることのできる場の減少

青年向け教育プログラムの開発と実施

◇青少年向けの施策のなかで青年向けのものが充実していない×未婚化の進展、フリーター・ニートの増加

多文化共生の拠点づくり

◇定住外国人への教育面での対応不足×母語のない子どもの増加

地域間格差への対応

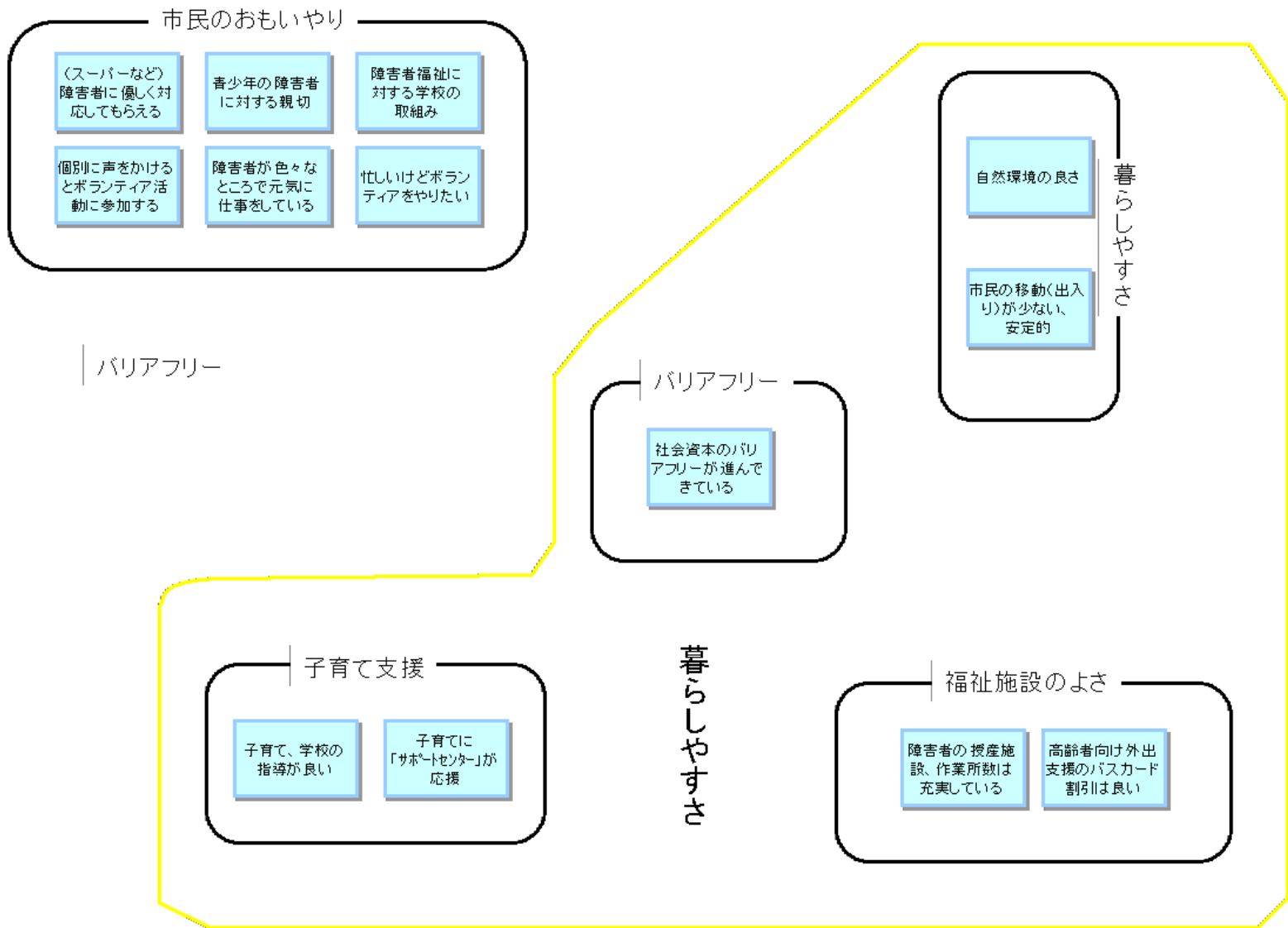
◇地域間格差×地域間格差の拡大

まとめ

- ・世代間交流の場の整備
- ・子どもを安全に遊ばせる場と人材の提供
- ・青年向け教育プログラムの開発と実施
- ・若者による市の文化PR
- ・多文化共生の拠点づくり

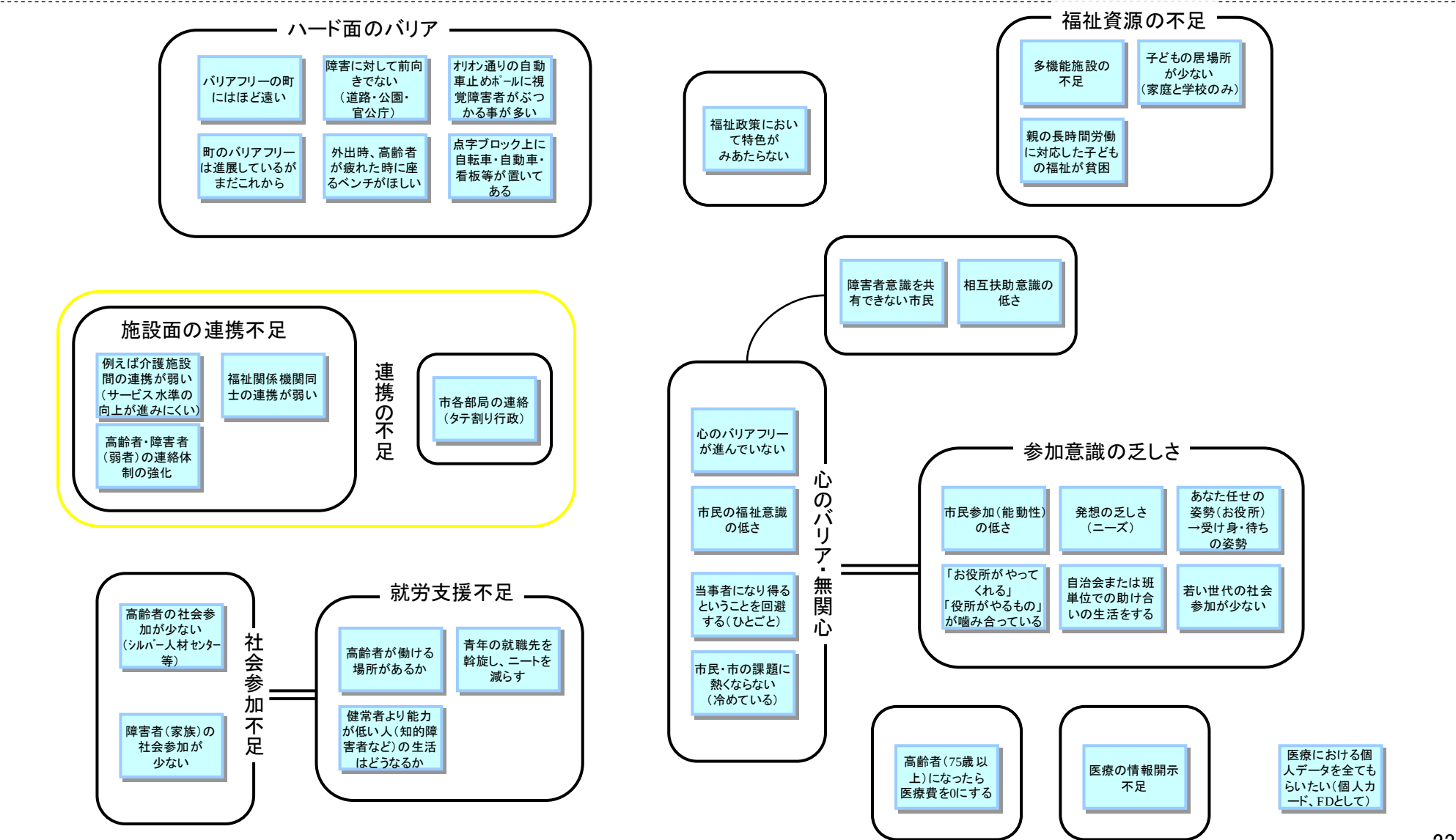
3. 市民福祉分科会 (1)SWOT分析 ①強み

市民福祉分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「強み」は以下の通りである。



3. 市民福祉分科会（１）SWOT分析 ②弱み

市民福祉分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「弱み」は以下の通りである。



3. 市民福祉分科会（2）SWOT分析 強み・弱みの絞り込み結果（5つ程度）

市民福祉分科会では、強み・弱みの中から、特に重要なものを5つ程度に絞り込んでいる。
絞り込まれた「強み・弱み」は以下の通りである。

強み

- ①ハード面でのバリアフリーはある程度進んでいる
- ②健康で元気な高齢者が多い（特に女性）
- ③NPOやボランティアとして活躍する人は多い
- ④福祉関連の相談窓口には様々なものが用意されている

弱み（問題）

- ①障害者に対する心のバリアフリーが残っている
（障害者と接することが少ない）
- ②子育てに時間をとれていない親が多い
- ③子どもの居場所不足
（異なる年齢の子どもの縦のつながりが不足）
- ④縦割り行政による福祉サービス
（施設間の連携も弱い）

3. 市民福祉分科会（3）SWOT分析 ③機会／④脅威

市民福祉分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「機会」「脅威」は以下の通りである。

※本分科会では機会と脅威を独立して議論せず、重点課題のアイデアを出すなかで議論した。

機会

- ①障害者と接する機会の増加
（ハード面でのバリアフリーが進む、特別支援教育の進展等）
- ②福祉サービスにおけるNPO、ボランティア、民間企業等の進出
- ③団塊世代の地域活動への参加
- ④総合的学習等、一般の教科以外の教育内容の充実

脅威

- ①福祉関連の支出による市の財政の悪化
- ②障害者への自己負担の増加（障害者自立支援法）
- ③子育てに悩む親の増加
- ④子どもの健康づくりに関わる習慣の悪化
（運動しない、よく噛まない等）
- ⑤コミュニティや地域ぐるみで支える意識の減退
- ⑥企業間競争の激化による長時間労働の増加
- ⑦突然発生する福祉ニーズへの対応

3. 市民福祉分科会（4）SWOTクロス分析結果

市民福祉分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

強み×機会

ボランティアのコーディネーターの発掘
◇NPOやボランティアとして活躍する人は多い×団塊世代の地域活動への参加

強み×脅威

市の問い合わせ窓口の集約化
◇福祉関連の相談窓口には様々なものが用意されている×突然発生する福祉ニーズへの対応

福祉サービスにおける「もれと重複」の洗い出し
◇NPOやボランティアとして活躍する人は多い×コミュニティや地域ぐるみで支える意識の減退

高齢者の健康づくり
◇健康で元気な高齢者が多い(特に女性)×福祉関連の支出による市の財政の悪化

弱み×機会

障害者福祉における参加と交流の充実
◇障害者に対する心のバリアフリーが残っている×障害者と接する機会の増加

弱み×脅威

子どもの居場所づくり
◇子どもの居場所不足×コミュニティや地域ぐるみで支える意識の減退

家庭と仕事の両立の支援
◇子育てに時間をとれていない親が多い×企業間競争の激化による長時間労働の増加

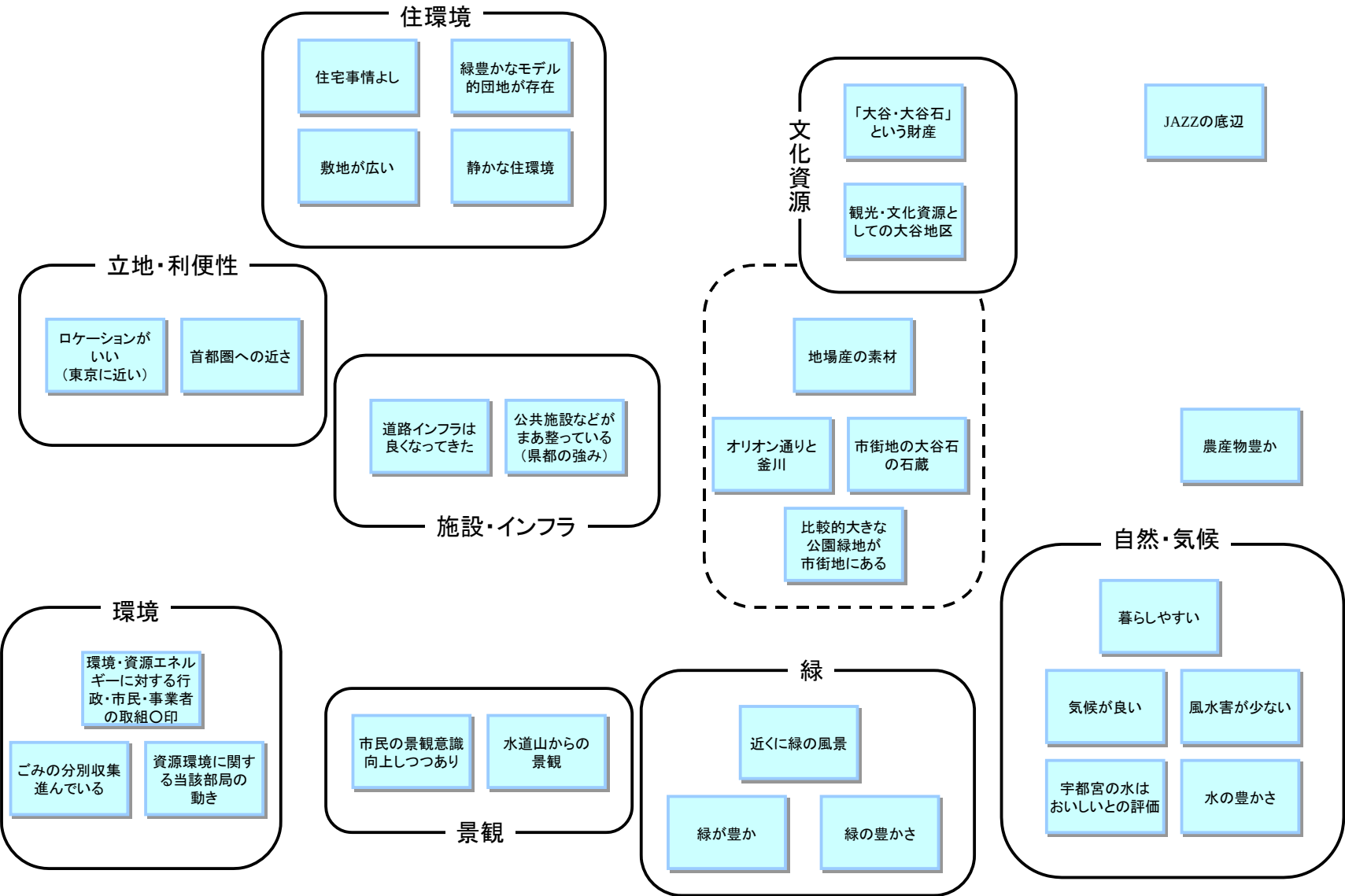
1人親家庭等への子育て支援
◇子育てに時間をとれていない親が多い×子育てに悩む親の増加

まとめ

- ・障害者福祉における参加と交流の充実
- ・市の問い合わせ窓口の集約化
- ・福祉サービスにおける「もれと重複」の洗い出し
- ・高齢者の健康づくり
- ・子どもの居場所づくり
- ・家庭と仕事の両立の支援

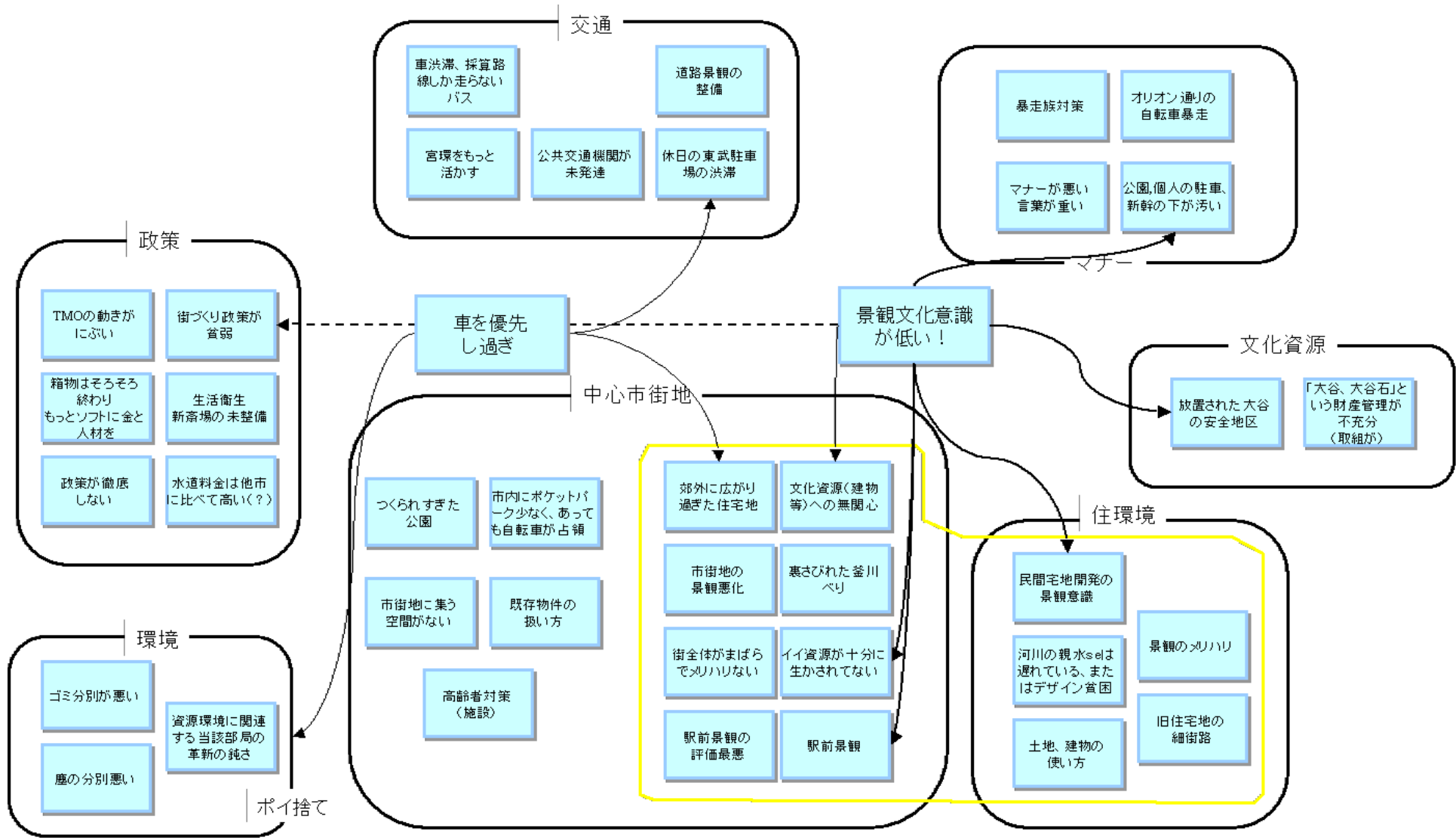
4. 生活環境整備分科会（1）SWOT分析 ①強み

生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「強み」は以下の通りである。



4. 生活環境整備分科会（1）SWOT分析 ②弱み

生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「弱み」は以下の通りである。



4. 生活環境整備分科会（2）SWOT分析 強み・弱みの絞り込み結果（5つ程度）

生活環境整備分科会では、強み・弱みの中から、特に重要なものを5つ程度に絞り込んでいる。
絞り込まれた「強み・弱み」は以下の通りである。

強み

- ①首都圏からのアクセスが良い
 - ◆工場誘致
 - ◆他見からの定住が多い
 - ◆文化交流
- ②緑と水の自然に恵まれ風水害が少ない
- ③大谷地区の景観と大谷石による建造物を保有
- ④周辺部に豊かな住環境を得やすい
- ⑤自動車道路の整備が進んでいる
 - ◆内・外環状線

弱み（問題）

- ①公共交通の整備・ネットワークが悪い
- ②景観・文化意識が低い
- ③まちづくり統括的に支援、補助、制限推進する機関がない
- ④市街地の公共スペースー住環境の魅力がない
- ⑤産業廃棄物量が減らない

4. 生活環境整備分科会（3）SWOT分析 ③機会／④脅威

生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「機会」は以下の通りである。

機会

循環型社会への移行

- ◇細分化されたゴミの処理の実態が求められる
- ◇資源リサイクルのため、分別が更に細分化される
- ◇公道等へのポイ捨てへの罰則が強化される
- ◇水の豊かさを大切に
- ◇高齢者も容易に理解できる分別細分化の手法が求められる
- ◇外国人労働者などへの資源リサイクルの教育説明が必要となる
- ◇分別が進むと現在のゴミステーションの形態が変わる
- ◇環境エネルギー
- ◇省エネ実現への国際的要求
- 分別が進むと無主物から有主物へ変わって行く
- ◇分別が進むとゴミ収集車は週7日稼働へと変わる
- ◇自治会内でのゴミ環境は美化へ転換する

行政役割の変化

- ◇広域行政の実現（道州制の導入）
- ◇小さな政府、地方行政開花のチャンス
- ◇地方都市間の連携強化
- ◇教育投資の増大

高齢者の貢献

- ◇団塊世代高能力者の時間的余裕
- ◇清原や芳賀の企業に勤める人の大量退職
- ◇元気な高齢者の社会参加余裕
- ◇無職の人が増加
- ◇高齢化により時間あまり世代が増え、文化・環境への関心が高まる

景観意識の高まり

- ◇地域性が見直しが高まり、市の独自性が問われる
- ◇本県の文化遺産に誇りをもつ
- ◇城址公園ができる（景観シンボル）

中心街への回帰

- ◇集中型都市の必要性
- ◇ミニ開発の限界
- ◇都市観光客の増加

生活意義の変化

- ◇大量消費のおわり
- ◇「満足」するジャンルが変わる
- ◇県民意識改革
- ◇個人教育
- ◇自然を重視する社会への回帰
- ◇ゆっくり生活への回帰（省資源、省エネ）
- ◇県民性を知るマナー、態度
- ◇使い回し方の質
- ◇生産されたものが再利用されるようになってきている
- ◇利便性需要→文化需要へ（より日常的な）
- ◇地産地消、Slow Lifeと地域への関心が高まっている
- ◇趣味の質
- ◇生活の質

他

- ◇外国人労働者の増加（低コスト）
- ◇道路インフラは良くなってきた
- ◇地価基準の崩壊
- ◇よその街のよいところを学ぶ

脅威

循環型社会への阻害

- ◇ゴミの最終処分場はいっぱいになる？
- ◇廃棄物課金
- ◇産廃処分場の枯渇

宮らしさの衰退

- ◇宇都宮のことを知らない宮っ子二世の増加
- ◇文化遺産への無関心
- ◇中心市街地に残された大谷石建造物の老朽化
- ◇景気の高まりと共に、歴史的景観が無くなって行く（蔵等の小規模な物）

ストックの増大

- ◇静かな住環境
- ◇空家、空き店舗の増加、廃墟化
- ◇中心市街地に増える駐車場、未利用地
- ◇建物老朽化
- ◇市中心部のスラム化
- ◇北関東道開通により、郊外型ショッピングセンターに益々依存する
- ◇中心市街地に急増するマンション
- ◇高齢化により車への依存度が低くなる
⇒中心部へ
- ◇郊外大型店の撤退
- ◇事業所や店舗の郊外転出

社会不安の増大

- ◇子どもの登下校時の安全確保
- ◇地域のコミュニティはこのままだと崩壊
- ◇規範意識の低下（ルールを守らない）
- ◇外国人労働者の増加（異文化のブツカリ）
- ◇若い人の社会参加意識の低下
- ◇社会階層化が進む（できる者とできない者）
- ◇ポイ捨てが後をたたない
- ◇労働人口の減少
- ◇元気な高齢者の社会参加圧力
- ◇高齢者医療費の増大

公共施設の維持不安

- ◇税收減により都市施設整備が遅くなる
- ◇税收の減少、緊縮税制
- ◇市財政の赤字化
- ◇道路景観の整備
- ◇インフラ老朽化

他

- ◇金のない無職の人が増加
- ◇交通弱者の孤立

4. 生活環境整備分科会（4）SWOTクロス分析結果

生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

強み×機会

- 強み: 首都圏アクセスがよい
- 街を楽しむ人の訪れの期待(景観意識)
 - 大谷石を生かしたオンリーワンの都市観光で東京人をひきつける(景観意識)
 - 東京から企業誘致ITビルディング(中心街回帰)
 - 駅前利便顔づくり(中心街回帰)
 - 首都圏からアクセスが早くなり新しいニュースが身近にとどく対応が早くなる(生活意識の変化)
 - 首都圏勤務者の週末ハウスをつくる(生活意識の変化)
 - 自然の豊かさと都市の便利さをあわせもつスローライフスタイルのアピール(生活意識の変化)

- 強み: 大谷地区・大谷石というユニークな資産
- ・緑豊かな郊外に環境共生型住宅を増やす(空家の再利用) (循環型社会)
 - 自然を生かした教育へ (行政役割変化)
 - 風水害対策費等の軽減 (高齢者の貢献)
 - 自然に恵まれた高齢者のゆとりある日常 (高齢者の貢献)
 - 恵まれた環境を後世に伝える調和のとれた町並みになる (景観意識)

- 強み: 大谷地区・大谷石というユニークな資産
- 大宅石をキーワードにした都市間連携活 (行政役割変化)
 - 住み続ける地域へのこだわり (景観意識)(生活意識の変化)
 - 大谷地区を石と歴史の文化財学ぶ多くの人によく知ってもら (景観意識)
 - 個性ある街の実現 (中心街回帰)
 - 大谷在住の意固地、勝手が変化する (中心街回帰)
 - 地域への帰属意識の高まり (生活意識の変化)

- 強み: 自動車道路の整備が良好
- 上下水道、道路と緑を守り高齢化、少子化、住環境がよくなる (循環型社会)
 - 環境共生型の住宅 (循環型社会)
 - 首都圏のビバリーヒルズをつくる

- <自動車道路>
- 広い道路を作るとき電線・ガス・水道を同時にする 経費の節約になる

- <全体>
- 環状線沿いはファッション性の高い看板を集め、特色ある車窓景観を作り出す(景観意識)
 - 歩いて暮らせる中心街と郊外部を機能的な公共交通網でネットワーク (中心街回帰)

弱み×脅威

- 弱み: 公共交通ネットワークが弱い
- バス停・電停に大谷石をあしらう (宮らしさ)
 - 既存インフラと駅と狭範囲のアピール (ストック増大)
 - 要所にある空き店舗などを更地化しパーク&ライド (ストック増大)
 - バス停・電停の前の空きストックをカフェに (ストック増大)
 - 渋滞する道路の整備をし歩道、自転車の整える中心部のスリム化、弱者が孤立する(ストック増大)

- 弱み: 景観意識が低い
- 自然の豊かさと歴史・文化を多くの人に知らせ、街の誇りになるような必要性を高める(宮らしさ)
 - ストック＝悪い、というイメージの払拭 (ストック増大)
 - スラム化ーリフォームによる住宅開発 (ストック増大)
 - 公園、街、川、新幹線の下がいつも汚いから早く徹底させる (社会不安)
 - 市の誇りをアピールする (社会不安)

- 弱み: まちづくり統括機関がない
- 街づくりの市民憲法をつくる(宮らしさ)
 - 地価基準、発掘&実例(ストック増大)
 - 市民のボランティア活性化(公共施設維持不安)

- 弱み: 市街地の公共スペース、魅力的な住環境が少ない
- まちの中に二荒山神社や城址公園がのぞめる公園をつくる(宮らしさ)
 - 家賃補助等の枠拡大 (ストック増大)
 - 市街地の空ビルを民間開放する。
 - 機関が弱体であると計画の推進が遅れ市民の協調性が薄れる(公共施設維持不安)
 - 出張客などが多い建物のロビーにジャズを聴きながらカクテルが飲めるコーナー (公共施設維持不安)
 - 街中の公共施設に生活必需品があるお店、集える場所 (公共施設維持不安)

- 弱み: 廃棄物量が減らない
- 廃棄物減量化のキャンペーン実施、罰則の強化、若い人の関心が低い (循環社会への阻害)
 - 大型商業施設の空き店舗(放置)を防ぐためデポジット制導入 (循環社会への阻害)
 - 社会不安増大、ボイ捨てがさらに増えると思えば条例が増す (社会不安)
 - 処分場の枯渇ー大谷への再投入が始まる (社会不安)

- <自動車道路>
- 広い道路を作るとき電線・ガス・水道を同時にする 経費の節約になる

4. 生活環境整備分科会（4）SWOTクロス分析結果

生活環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

強み×脅威

- 強み：首都圏アクセスがよい
- 東京の影響を受けすぎない。宇都宮らしさを確立し、安易に「東京化」されないようにする（宮らしさの衰退）
- 強み：自然が豊富で風水害少ない（ストック増大）
- 強み：大谷地区・大谷石というユニークな資産
- 大谷石の廃材を積極的にリサイクル利用し、循環型社会を目指していく意識を高める（産業廃棄物の捨て場になっていたという負の遺産としてのシンボルを「循環型社会」のシンボルとしてプラス活用していく）（循環型社会）
 - 宇都宮らしさを演出するシンボリックな素材として活用する（宮らしさの衰退）
 - 市街地に残されている蔵など、大谷石の建造物を地域を代表する良好なストックとして生かしていく（ストック増大）
 - 社会不安-ずさんだ社会や、自分の住んでいる地域に関心がもてない人々へ、宇都宮のアイデンティティの意識付けの材料として活用する（社会不安）
- 強み：周辺部の良好な住環境
- 今後空家などが増加すると考えられる郊外の良好な住宅ストックをいかしていく。簡単に壊さない（ストック増大）
 - 郊外に広がる豊かな自然環境とゆとりある住宅ストックを魅力的な住環境として再構築し、それを宇都宮ならではのアピールポイントとする（宮らしさの衰退）
 - 高齢世帯、単身世帯が増大する地域における不安を緩和するため、地域のコミュニティ力をつけ、物理的な環境だけでなく真に暮らしやすい住環境を作っていく（社会不安）
- 強み：自動車道路の整備が良好
- 車の運転ができない高齢者などの増大にあわせ、既存道路ストックを公共交通路として積極的に活用する。沿線の空き店舗も停留所周辺の整備と絡めて。パークアンドライドの可能性も検討。

弱み×機会

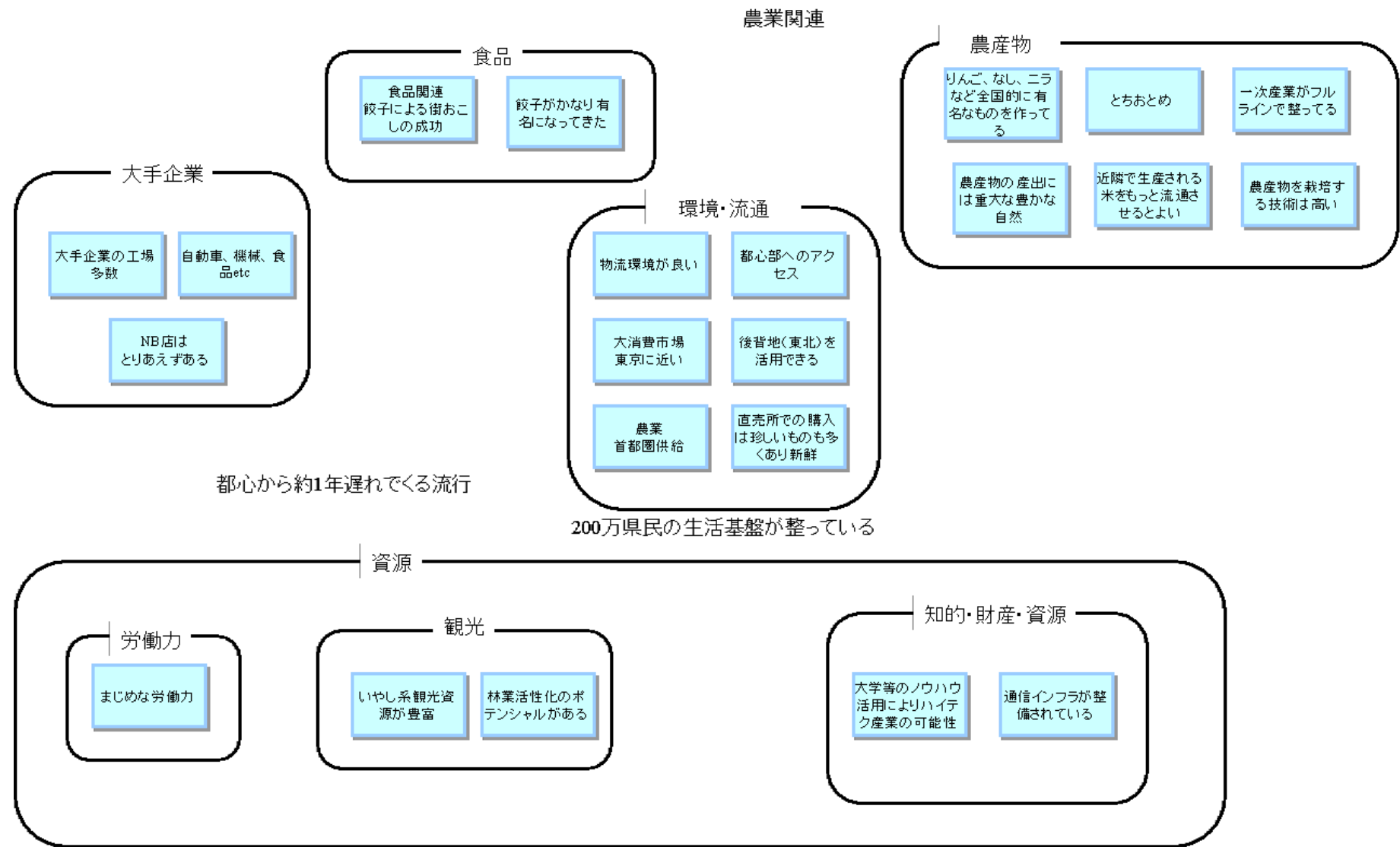
- 弱み：公共交通ネットワークが弱い
- 既存の道路ストックを生かす（ストック増大）
 - これから増大する高齢者が内に引きこもらず地域の社会資源として広く活躍できるような交通ネットワークを作る。（高齢者の貢献）
 - 中心市街地で高齢者が車を使わなくても暮らしやすいような公共交通整備（高齢者の貢献）
 - 便利さだけではなく車を使わないライフスタイル、「スローライフ」「エコな暮らし」を選択できるような街にする
- 弱み：景観意識が低い
- （景観文化意識が高まっている）この期をのがさず小さなアクションを起こしていく。景観意識を持った人々を集約するような受け皿をつくる
 - 中心市街地に次々と立つマンション。市場原理だけにまかせず、中心市街地ならではの魅力的なライフスタイルを提案できるようなイメージづくりとそれを推進していく上でのアクションルールづくり。宇都宮の地産文化を生み出せるようなネットワークづくり
- <まちづくりを統括する機関>
- 弱み：市街地の公共スペース、魅力的な住環境が少ない
- （景観文化意識が高まっている）この期をのがさず小さなアクションを起こしていく。景観意識を持った人々を集約するような受け皿をつくる
 - 中心市街地に次々と立つマンション。市場原理だけにまかせず、中心市街地ならではの魅力的なライフスタイルを提案できるようなイメージづくりとそれを推進していく上でのアクションルールづくり。宇都宮の地産文化を生み出せるようなネットワークづくり
- 弱み：廃棄物量が減らない
- 政策はあるが、個人レベルへの浸透
 - 担当者が変わってしまう。腰を据えてやらなければならない。

まとめ

- ・公共交通ネットワークの充実
- ・住環境（都心も郊外も）の整備とコミュニティづくり 大谷石の活用も
- ・廃棄物・個人レベルへの浸透
- ・まちづくり統括機関をつくる

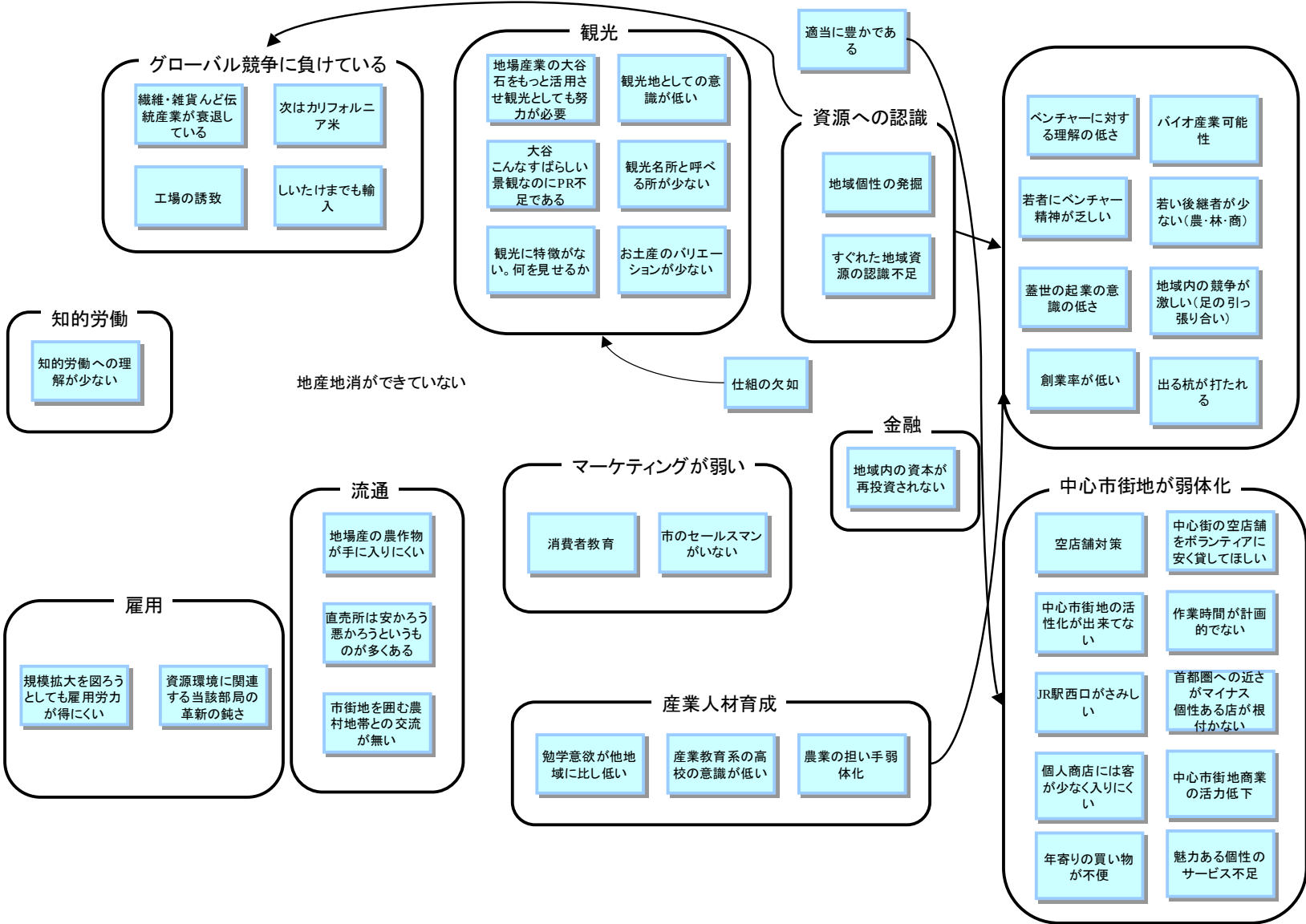
5. 産業振興分科会（1）SWOT分析 ①強み

産業振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「強み」は以下の通りである。



5. 産業振興分科会（１）SWOT分析 ②弱み

産業振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「弱み」は以下の通りである。



5. 産業振興分科会（2）SWOT分析 強み・弱みの絞り込み結果（5つ程度）

産業振興分科会では、強み・弱みの中から、特に重要なものを5つ程度に絞り込んでいる。
絞り込まれた「強み・弱み」は以下の通りである。

強み

- ①一次産業がフルラインで整っている
- ②餃子がかかなり有名になってきた
- ③大消費地東京に近い
- ④いやし系観光資源が豊富
- ⑤大手企業の工場多数

弱み（問題）

- ①中心市街地が弱体化
 - ◆首都圏への近さがマイナス、個性ある店が根付かない
 - ◆年寄りの買い物が不便
- ②マーケティングが弱い
 - ◆情報発信力がない
 - ◆市のセールスマンがいない
- ③ベンチャーに対する理解の低さ
- ④産業教育系の意識が低い
- ⑤観光地としての意識が低い

5. 産業振興分科会（3）SWOT分析 ③機会／④脅威

産業振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「機会」は以下の通りである。

機会	脅威
こだわり商品への需要増え （農、地場等差別化商品） ◇価値観の多様化 ◇専業農家が多くなり、農産物も専門化 ◇農産物の生産の向上 ◇地場産品の振興 ◇市の名物で街おこし ◇グリーンコンシューマーの増大 ◇質的農業の発達（有機農法や特産物） ◇食の安全安心	経済環境の変化 ◇ディーゼル車規制 ◇地価の下落 ◇食生活の変化、外食が多くなる（農業生産物、流通への係わり） ◇欲望はあっても切迫したニーズがない
アクセス改善 ◇首都圏への接近 ◇北関東自動車道開通で茨城、海外への接近 ◇有料道路料金値下げ ◇都心へのアクセスがよくなる ◇都市部から大型店が店出される（消費拡大、流行にのる） ◇交通基盤や情報の伝達スピード加速化により質的な物へのこだわりが出てくる ◇交通網が整備され、高速道からのアクセスがよくなる ◇商業地の集約拡大 ◇東京に近い（メリットとデメリットの併存） ◇陽南通りがJR線下を開通 ◇やはりLRT構想	既存産業の停滞 ◇中国・インドの発展（ロシアも） ◇外国からの安価商品（競争激化） ◇超大型店の中小小売業分野への進出 ◇ストロー効果（いいところだけ吸いとられる） ◇物流の変化により倒産が増えていく ◇進出企業の撤退 ◇資本流出（投資機会が少ない） ◇空店舗通りの増加 ◇大企業の進出が減る ◇東京住民の草刈場 ◇首都圏に生活圏が入ることにより地元産業が倒れる ◇若者の東京志向 ◇ベンチャーが少ない（NEET？） ◇雇用吸収型産業の低迷（ハイテク化） ◇工業団地の企業撤退 ◇コンピュータ関連産業の地位の低下（頭脳流出） ◇地域金融の足腰が弱い ◇地元の銀行のゆくえ ◇伝統的工芸品産業の衰退（グローバル化）
開発ポテンシャル ◇中心街もイメージチェンジしてよくなるかも ◇JR宇都宮駅東口の開発 ◇環境にやさしい街づくりはすすめられる ◇二荒山神社前の開発 ◇経済特区の申請UP	市のアイデンティティの埋没状況 ◇売り方が下手 ◇宇都宮という知名度が低い ◇地域力をつけよう、強めよう ◇空港へのアクセス ◇個性のない街になっていくのでは
政治、経済 ◇アジア経済共同体 ◇足銀受皿銀行の登場 ◇地方分権化 ◇成熟社会の進展 ◇国会誘致？ ◇個人の資産隔離はよくなるのでは（貯蓄、財力がある）	人口問題－高齢化・少子－ ◇高齢者向け産業の未発達 ◇少子・高齢化（労働力が減少） ◇道路網は整備されても高齢者の活動範囲が狭まる ◇交通網が発達することにより人口の流出 ◇子育て支援にもっと充実を
未来産業 ◇ユビキタス社会実現 ◇ハイテク産業が多くなる	労働力の減少 ◇商店・農業etcの後継者不足 ◇人口増（核家族化）による農地の減少 ◇農業人口減少、就農者高齢化 ◇中央集権化（知識人の一極集中） ◇ニート増加
その他の ◇許容度が高い、バリアーが低い ◇有識な若い世代のUターン⇄都内への流入 ◇福祉関係の充実	政治・財政の悪化 ◇消費税アップ・政治のツケ ◇国へ頼りすぎの農業、農業体質弱体 ◇各種税金の値上げ
教育・文化・スポーツの向上 ◇文化の向上 ◇音楽、芸術への理解度深まる ◇大学の法人化 ◇栃木弁（個性） ◇教育が多様化して受験地獄もなくなるかも… ◇栃木SCの昇格	安全・治安の悪化 ◇犯罪は多くなるかもしれない ◇外国人労働者の受入、体（態）勢強化が必要
相対的資源価値向上 （資源見直し機会） ◇観光を“売り”にしよう ◇観光資源が豊か ◇自然環境が残っていることから、いやし的な観光が進むのではないかな	環境（自然）悪化、産業廃棄物 ◇温暖化、環境破壊

5. 産業振興分科会（4）SWOTクロス分析結果

産業振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

機会×強み

特産品

- ◇とちおとめのようなブランド農産物を他にもどんどん作り出す。全国から所望されるようにする
- ◇全国一のとちおとめでどこにも負けない加工品を開発、宇都宮の顔の一部となるように（馬路村のゆず加工品のようにこれに代る味がない）
- ◇一次産業がフルラインで整っているのに、市民にも農業のよさを理解してもらい、地場ものを消費できるようにしなければ
- ◇宇都宮市の風土にあった農産物（品種）を開発し、加工産業を育成する
- ◇農産物の専門化→体験
- ◇農家の作物の専門化が必要（特色ある～さんちの～など）
- ◇産地のカムリをつけた産物を販売する方法で
- ◇特産の農産物を全国、アジア市場にまで広げる
- ◇価値観の多様化に対応できる農産物マーケティングをより検討すべき（宇都宮の食材を使う店）
- ◇新鮮農産物に専門性をもたせる（群馬とはちがうPR）
- ◇一次産業がフル。農産物が専門化することにより、消費拡大を図る販売網を作る
- ◇首都圏に近いメリット→地場産品の振興
- ◇Eコマース・システムを活用する（ヤフーとの提携もありうる）
- ◇特産品の直売所（アンテナショップ）をつくる
- ◇いちご特産物の様な、特筆する農産物の生産と農家への育成を考える
- ◇より安全で質の高い農生産物の安定供給
- ◇オリジナル農産物の研究・開発施設（農業ベンチャーの促進）

アクセス

- ◇北関東自動車道の開通で海が近くなるので、魚料理の食文化を高めていく

地元民

- ◇教育・文化・スポーツを向上させるには、地元民と大手企業等からの流入人口との協調理解が大切だ！

ぎょうざ

- ◇餃子で結ぶ全国ネットワークを進めていく（餃子家族など）
- ◇ぎょうざの街を持続するためにぎょうざ通りとかぎょうざタウンをつくらう
- ◇餃子に関連する産業の育成（材料を宇都宮市の様々な農家・小麦工場から調達）
- ◇宇都宮の特産物を市民が再認識し、地産地消をすすめる工夫

観光

- ◇大谷などの開発を進めるのはアクセスを工夫すべき
- ◇いやしの追求。本当のいやしを提供できる仕掛けを
- ◇いやし系観光地のPR・呼び込みを活発に行って存在を知らせる
- ◇豊かな観光資源を売りにする

企業

- ◇進出大企業の製品展示会を開く
- ◇大手企業の工場誘致は補助金が従来より出るとの事なので、チャンスではないか
- ◇工場誘致を熱心に。その周辺は人が増え、にぎやかになる
- ◇進出大手企業に地元雇用比率を（義務）指導する

再開発

- ◇宇都宮城の完成→一人々の憩いの場所としよう
- ◇歴史のある街を強調した開発をする（宇都宮城址、百人一首）

教育

- ◇進出企業の幹部と地元経済人の定例的な交流会を開く

他

- ◇宇都宮市を活気がある市とよその人はとらえているという。ルイヴィトン級の店をひとつ誘致しよう

機会×弱み

教育

- ◇進出企業の幹部と地元経済人の定例的な交流会を開く
- ◇安全な食について学校教育と市民教育を徹底して行う
- ◇アクセスが良くなる。大都市への特産物へのアピール、コマーシャル
- ◇産業教育系の意識が低いのは未来産業の導入などで活性化出来るのでは
- ◇食の安全、安心を地域でもっと理解を深める
- ◇子供世代に経済や地球レベルの環境問題を教える
- ◇消費者教育の必要性
- ◇意識が低い所がかなりの弱み。資源は有るのでどうにか市民で話せる場を
- ◇新たな基幹産業を担う人材・若手企業家の育成に力を貸そう
- ◇宇都宮のポテンシャルを自信をもって説明できる教育
- ◇マニー、中西など世界的企業を市民が誇れるように教育する
- ◇小中高校等で、もっと宇都宮を勉強する機会をつくらう
- ◇市民の教育、市民へのPRによる意識づけ

行政

- ◇地域経営のフロを育てる（首長は市の経営者）
- ◇企業家をささえる行政が大切
- ◇R&Dに、自治体はより多い予算を投入する

再開発

- ◇二荒山神社前に「お年寄り団地」を、周囲に専門店を誘致
- ◇中心市街地が弱体化しているので、アクセスを改善（LRT）するとともに地場商品等差別化された製品を扱う商店街へ
- ◇二荒山神社前の再開発
- ◇中心街弱体化、アクセス改善、産業開発、特産品等とからめて考えるかどうか
- ◇中心市街地へ大ベンチャー拠点を

地元民

- ◇まちづくりにリタイア高齢者のノウハウ活用策をつくる
- ◇元気印の年寄りをボランティアで活用しよう
- ◇人口ピラミッドを狭い地域単位でつくり、余剰労働力の所在を明示する
- ◇産地と需要側の交流をうながす
- ◇LOHASを支える自然を、東京に積極的に売り込む

企業

- ◇市中心部への車で用事を足す時、公的駐車場の整備を設置して欲しい。中心部に足が向かないのは駐車場の問題有
- ◇中心市街地に居住をうながす方策として計画されている二荒山神社周辺の建物づくりをすすめる
- ◇行ってみたいくなる大型店、有名店を中心市街地に誘致する
- ◇地域活性化に若者のリーダーを選び、支援する
- ◇進出大企業のディスプレイを行政がリードする
- ◇地元での雇用吸収型産業の創出（新たな基幹産業の創出）

観光

- ◇観光地・大谷・百穴等よく考えたら自分達も知らないことだらけ。資源発掘するのには、もっと知る事も必要
- ◇日光・鬼怒川・塩原・那須への通過点としてしか考えてない。市民も観光客も観光地と思うべき
- ◇大谷石文化をもっと前面に出した魅力ある商店街（統一性）の実現をめざすべき
- ◇いやし系観光地のPR・呼び込みを活発に行って存在を知らせる

デザイン

- ◇サービス産業の未来ビジョンをつくる

全体

- ◇将来の宇都宮を総合的に考えるには、たかが餃子からアピールできた市民を自負するべきだ

他

- ◇大学等の人材を生かし、ベンチャー企業を保護、育成していく

5. 産業振興分科会（4）SWOTクロス分析結果

産業振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

強み×脅威

<経済環境>

- ◇ディーゼル車規制によりクリーンな空気きれいな観光地のPR
- ◇外食が増えることで餃子の消費量さらにUP
- ◇地価の下落→零細、地場産業チャンス
- ◇地価(農地)下落→非農家の新規参入

<既存産業の停滞>

- ◇国際価格競争の激化→高級品で勝負するチャンス
- ◇食生活の変化で外食が多くなるので農産物の生産向上につながる
- ◇食生活の変化、外食が多くなる中で一次産業の復興
- ◇伝統的工芸品のPRの強化
- ◇農業人口、就農高齢化を帰農や趣味農業で代替
- ◇東京都民の草刈り場にならないよう、グリーンツーリズム農村地域の癒しの場の提供
- ◇農業政策(栃木固有の政策)長野教育界ex
- ◇若者の都会思考が増える中で働く場所の確保(工場誘致)
- ◇東京の草刈場(地元力の再発見)
- ◇ベンチャー育成(失敗を許容する価値観)

<環境悪化>

- ◇自然環境が悪化する中で一次産業を生かすには環境整備が必要(施設、設備)
- ◇産廃(モットイナイ教育)

<人口・労働力>

- ◇労働力の減少、農業などに定年により元気な人生をムダにならないよう労働力を提供する
- ◇少子労働力減少→外国人労働者への援助支援(そうすると脅威が機会に)
- ◇後継者不足を地場商品の振興や市の街おこし等でおぎなう
- ◇労働力不足、後継者不足の中で一次産業を伸ばしていくには労働斡旋の場を設ける
- ◇人口問題→食育の普及で補う
- ◇子育て(核家族にプレーキ、二世帯に補助)
- ◇交通網(公共交通機関)
- ◇ニート対策の推進(家事を手伝う教育等)
- ◇高齢者が現役で働き続けられる産業都市
- ◇高齢者向け産業(身の丈技術)

<政治>

- ◇増税(負担と受益の透明化)

<安全・治安>

- ◇防犯、社会の監視機能の評価、いい意味の隣組
- ◇治安の悪化→地域力の増加
- ◇安全・治安の悪化をいやし系の職業(企業)で克服

5. 産業振興分科会（４）SWOTクロス分析結果

産業振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

弱み×脅威

<既存産業>

- ◇売り方下手ストーリー効果 情報力、ふるさと創生の見直し
- ◇働くのは都心、住むのは宇都宮→よいところPR(交通網の発達→みんなでPR)
- ◇高齢者による高齢者のためのお店作り(買い物不便、産業未発達)

<アイデンティティ>

- ◇知名度を上げるためスーパー公務員の教育

<人口問題>

- ◇小学生へのキャリア教育

<Give up>

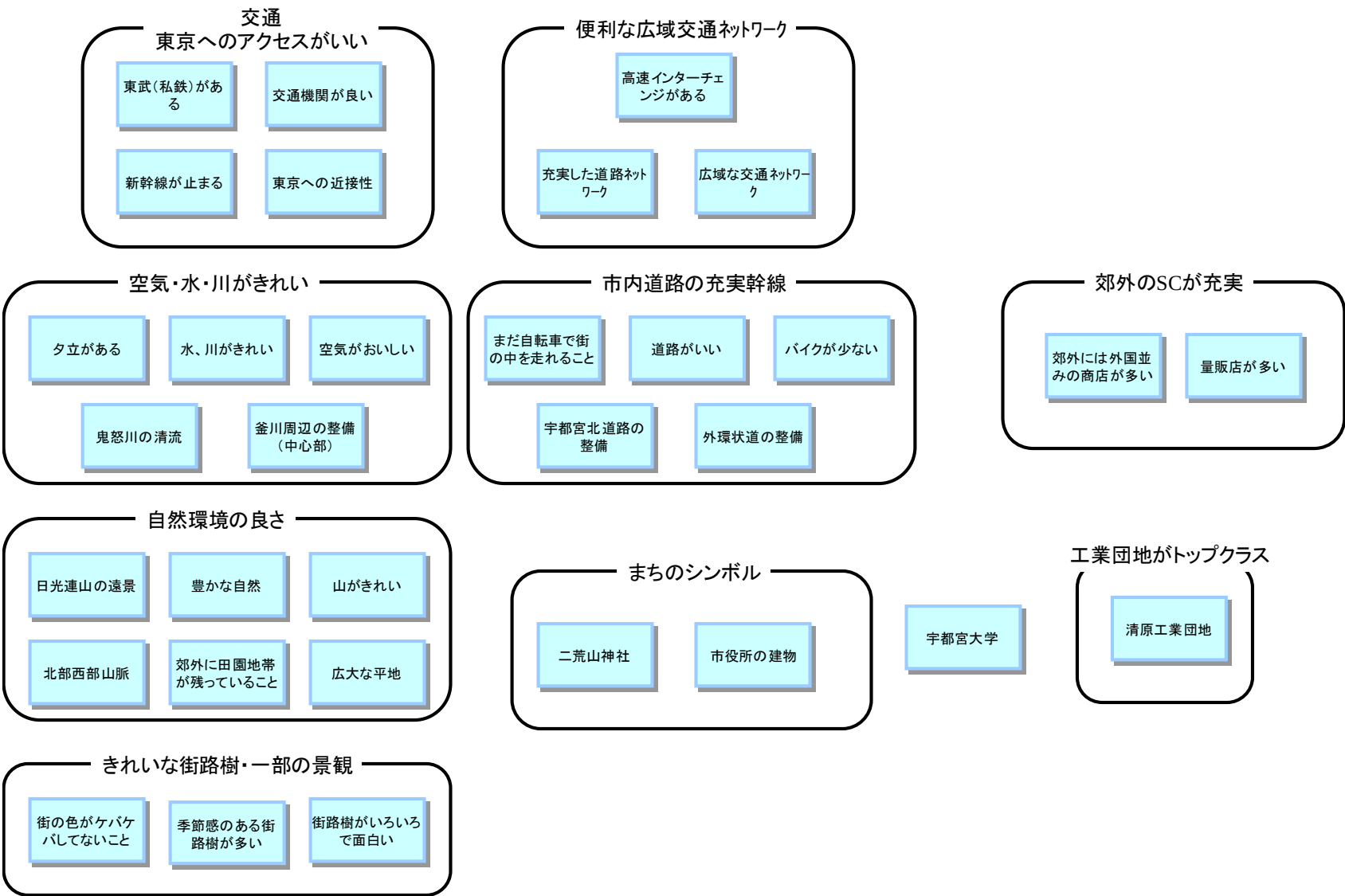
- ◇地価の下落を利用して工場誘致
- ◇温暖化(50年前のライフスタイルに戻れない)
- ◇大企業は宇都宮より中国
- ◇伝統産業(趣味の産業に転換)
- ◇東京の求心力(政治体制が変わらない)
- ◇安価商品の流入
- ◇人口流出(東京の経済が魅力)
- ◇農業人口の減少(額に汗しない人が多くなった)

まとめ

- ・安全・安心な食品供給基地の整備
- ・新しい観光業の創出
- ・企業家精神が欠如している現状を打破し、ベンチャー企業の育成を図る
- ・若年労働力不足時代への対応
- ・中心市街地空洞化への対応

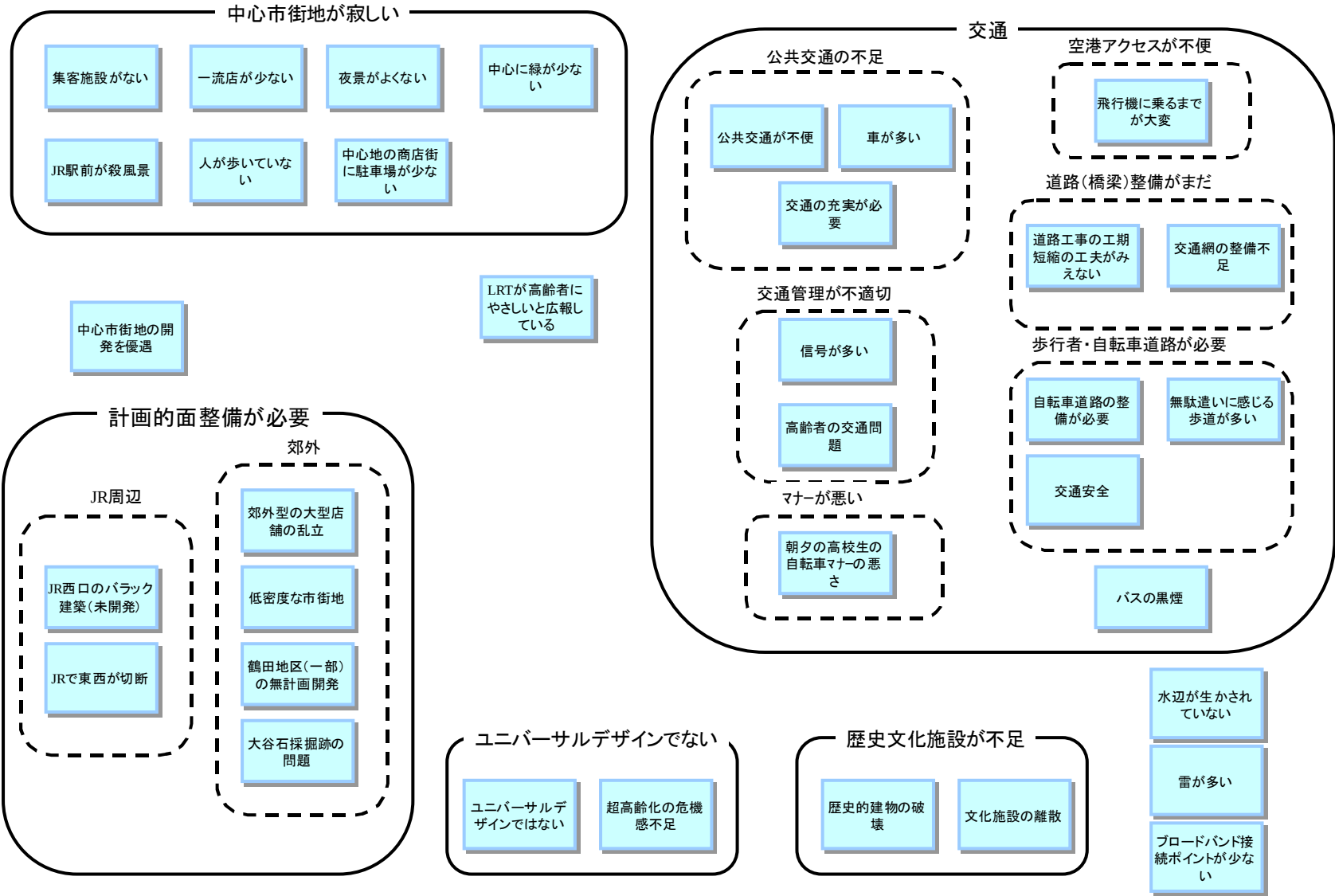
6. 都市基盤整備分科会（1）SWOT分析 ①強み

都市基盤整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「強み」は以下の通りである。



6. 都市基盤整備分科会（１）SWOT分析 ②弱み

都市基盤整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「弱み」は以下の通りである。



6. 都市基盤整備（2）SWOT分析 強み・弱みの絞り込み結果（5つ程度）

都市基盤整備分科会では、強み・弱みの中から、特に重要なものを5つ程度に絞り込んでいる。
絞り込まれた「強み・弱み」は以下の通りである。

強み

- ①幹線道路（3環状12放射）の充実
- ②郊外に緑豊かな田園、山林が残っている
- ③鬼怒川、田川、釜川が存在
- ④大谷石を使った建築物が多い
- ⑤東京からのアクセスが良好

弱み（問題）

- ①中心市街地に空店舗が目立つ
- ②市内公共交通体系が不十分、不適切
- ③JR西口駅前が殺風景、景観が悪い
- ④交通事故が多い、安全でない
- ⑤ユニバーサルデザインの街づくりになっていない

6. 都市基盤整備分科会（3）SWOT分析 ③機会／④脅威

都市環境整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「機会」「脅威」は以下の通りである。

機会

- 大谷石倉の活用・再生
- 清住町通りの再生・倉のまち
- 宇都宮城の活用
- 東口の再生
- LRT導入による美しい街づくり
- 市中心部人口流入
- 要請 美術館の建立
- 大林組による上野デパート跡地の具体的活用
- 北関東自動車道の開通
- 県と市の行政上の協力体制
- 自動車の減少
- 国際化が進む
- IT技術の進展
- 環境問題の顕在化

脅威

- 危機感不足
- 借金増加
- 住民の不公平感
- 公共投資の改革のおくれ
- 金利上昇
- 東口の緑化
- 競輪場跡地の利用
- 財政問題
- 税収減
- 中心街に住む人の高齢化
- 人口減少
- 郊外店舗の空地化
- ベッタタウンのスラム化
- 環境破壊
- 農業人口減少

6. 都市基盤整備分科会（2）SWOTクロス分析結果

都市基盤整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

強みで機会を活かすための課題

- ◇大谷石を使った建築物が多い強みを利用し、大谷石倉の活用再生をし、石蔵のイメージを定着させる（ミニ美術館（アマチュア画家の発表の場に）、区画整理に合せ清住通の倉のまち再生、新築物件に大谷石活用を推奨）
- ◇充実した道路を活用した都心部の歩行空間整備
- ◇宇都宮城を活用し、物産店を作る
- ◇競馬場跡地を総合グラウンド（遊園地とプールを作り、大人と子供が一日楽しめる場に）

弱みを強化して機会を逃さないための課題

- ◇上野デパート跡地≡高齡者施設対応と集客力あるテナント
- ◇オリオン通り等、品格のある専門店を呼びたい
- ◇東口駅前に緑地を残す
- ◇高齡社会にやさしく対応した中心部の開発、マンション誘導、美しいまちづくりの好機
- ◇JR西口周辺の緑化（市街地再開発にあわせ）
- ◇LRT導入によりL公共交通網の再生、トランジットモールの実現
- ◇安全、安心な街（歩いて楽しい街、車型社会からの脱却）
- ◇中心市街地への魅力的な中高一貫校の整備と子育て世帯の誘導

強みで脅威を克服するための課題

- ◇財政問題を解決するためのコンパクトな市街地形成（緑の保全）
- ◇郊外地区を中心とした自然保護、郊外大規模SCのこれ以上の抑制
- ◇既にある3環状放射に橋を加え最小の投資に留め、高齡社会に備える
- ◇駅周辺における首都圏在住団塊の世代の住宅誘導
- ◇東京からのアクセスが良い、郊外の緑の豊かさをアピールし人口流出を止める

弱みを強化して最悪の事態を招かないための課題

- ◇ユニバーサルデザインの街づくり
- ◇高齡化社会に対応した福祉・医療施設の公共交通軸上の整備
- ◇車線減少による渋滞増にならないため、LRTは検討しなす
- ◇市内公共体系が不十分（交通事故が多い）
- ◇中心市街地の空店舗（街づくり三法が改正されても今の商店街で客を呼べるか）

まとめ

- ・人が生活し、賑わう中心市街地の形成
- ・大谷石や石倉を生かした個性的、文化的な美しいまちなみの形成
- ・郊外の緑の保全、コンパクトな市街地の形成
- ・高齡化に備えた公共交通体系の再編成
- ・ユニバーサルデザインの街づくり